一部画像を加工・修正している箇所があります。

令和7年度　防犯ボランティアフォーラム　近畿ブロック　令和7年6月21日開催

三和地域安全・安心サポートネットワーク（京都府）

皆さん、こんにちは。私は福知山防犯推進委員協議会三和支部の支部長をしております、小原と申します。よろしくお願いします。これから、京都府福知山市三和町で取り組んでいる防犯活動を紹介させていただきます。

発表内容

1. 活動地域
2. 団体の概要
3. 活動内容
4. 課題と取組

それでは、一番目に「活動地域」、二番目に「団体の概要」、三番目に「活動内容」、四番目に「課題と取組」の順に説明させていただきます。

1. 活動地域

福知山市三和町
（三和地区・菟原地区）

京都府の北西部に位置する緑豊かな大地とのどかな農村風景が広がる自然あふれるまちになります。

まず、私たちが活動する京都府福知山市三和町という地域の特徴は、三和町は京都府の北西部に位置し、緑豊かな大地とのどかな農村風景が広がる自然あふれる町になります。町内には福知山市役所の三和支所のほか、こども園から高校までの学校機関、宿泊施設、金融機関、スーパーがあり、農村中心の一般住宅のほか、10 年ぐらい前から大企業を誘致して整備された三和工業団地などがある一方で、住民の大半が高齢者であり、過疎化が著しい現状です。また、町の中心に国道 9 号線が縦断するほか、国道 173 号線、府道 59 号等あり、行楽シーズンになると交通量も非常に多くなり、年間約 70 件の事故のほか、大きな事故も数件発生します。

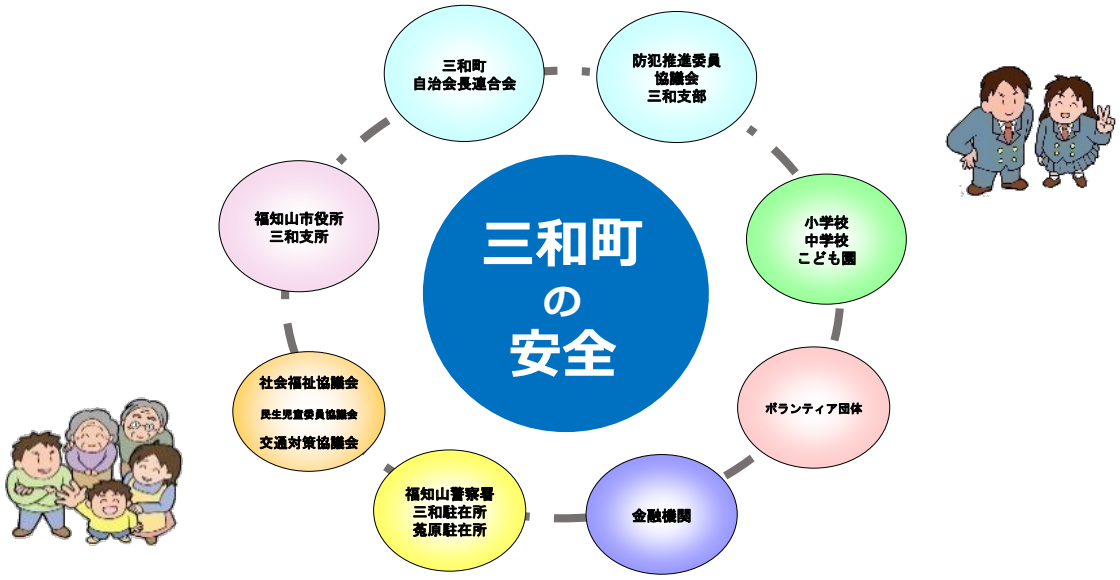
2. 団体の概要

三和地域安全・安心サポートネットワーク

平成23年9月、三和町の「自らの地域は自らが守る」という自主防犯の理念のもと、地域の安全なまちづくりのために設立

私たちが活動する団体について説明します。福知山市には4つの交番と12の駐在所があります。そのうち、三和町に所在する三和駐在所と菟原（うばら）駐在所が核となり、私たち防犯推進委員や様々な団体が協力して「三和地域安全・安心サポートネットワーク」という名前で三和町の防犯活動を行っています。

三和地域安全安心サポートネットワーク



この団体は、三和町における地域の防犯活動に取り組む様々な団体が相互に交流し、防犯活動を活性化させ、事件事故のない平和な三和町を目指すことを目的に、平成23年9月30日に結成した防犯ステーション団体です。来年には結成15周年を迎えます。

三和・菟原駐在所が核となっていますが、特に地域で防犯ボランティア活動に取り組んでいる私たち防犯推進委員と、三和町の 21 自治会長で構成された三和町自治会長会連合会が中心となり、三和町にある行政機関や学校、金融機関、それから民生委員やその他もろもろの団体と連携協力し、三和町の「み」と「わ」をもじった「みんなで取り組む防犯のわ」を合言葉に、「自らの地域は自らが守る」という自主防犯の理念のもと、工夫を凝らした防犯活動を行っています。

おかげさまで令和 5 年 10 月 12 日には、令和 5 年度の安全・安心なまちづくり功労団体として、防犯活動の最高表彰である内閣総理大臣賞を当時の岸田総理大臣から授与されました。

三和町防犯活動の合言葉

この写真は、三和町が内閣総理大臣賞を受賞したことを記念して、横断幕を制作した時の写真です。

3. 活動内容

①ビューティフルウインドウ（環境美化活動）

②ドローンによる情報発信活動

③学童警戒犬による通学児童見守り活動

④こども110番のくるま

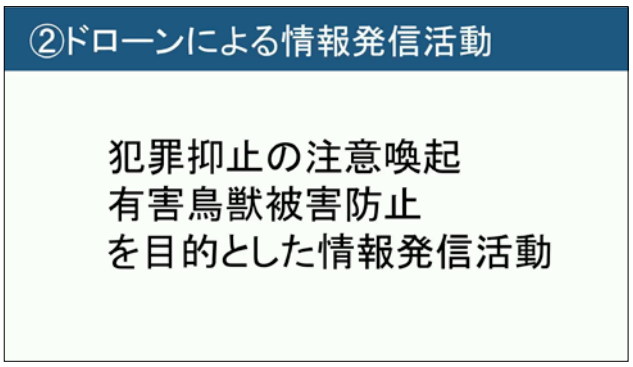
次に、活動内容ですが、三和町で取り組む主な防犯活動を４つ紹介させていただきます。

①ビューティフルウインドウ（環境美化活動）

防犯・交通安全を啓発する
ビューティフル・ウィンドウズ

①ビューティフルウインドウ（環境美化活動）

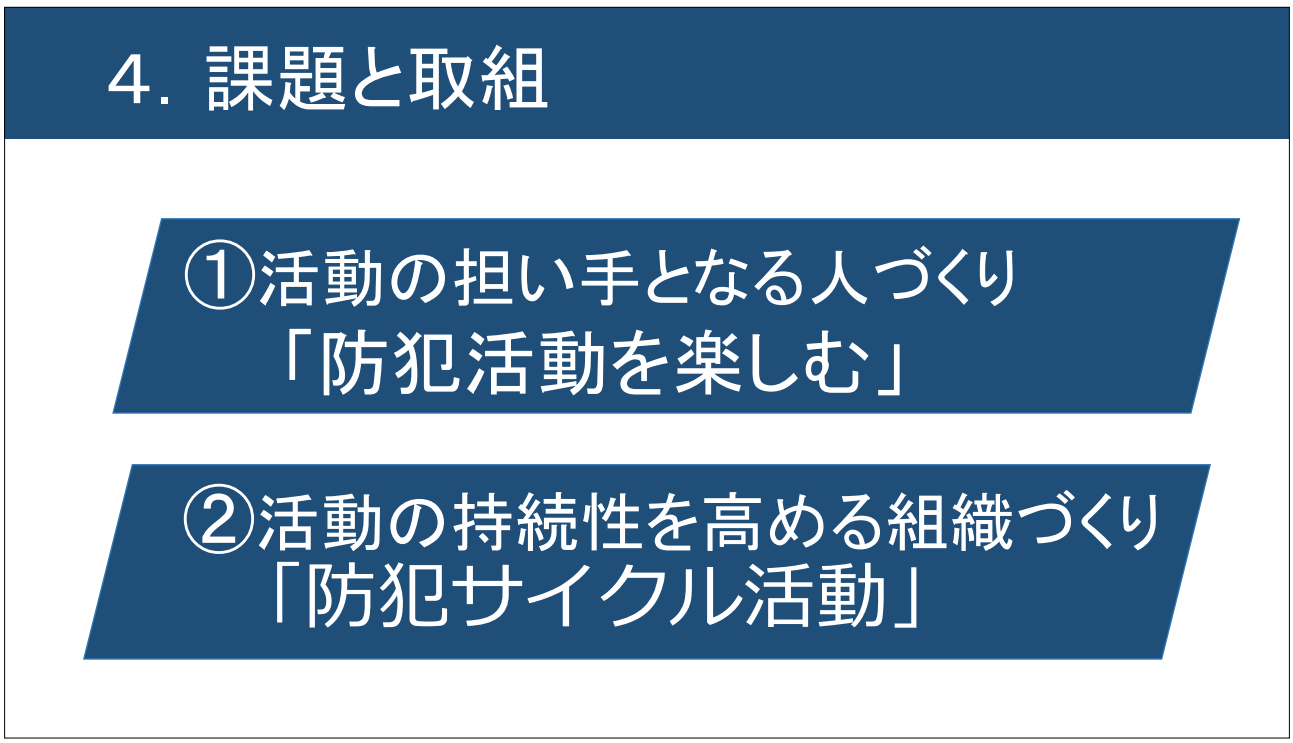
１つ目は、昨年から京都府の府民防犯の日である７月 10 日に、地域住民との協働防犯活動として、地元の高校生や国道修繕業者等とともに国道９号沿いに花壇を作り、ドライバー等へ防犯・交通安全を啓発する「ビューティフル・ウィンドウズ活動」を実施しました。これは、福知山高校三和分校の生徒が育成したケイトウ・マリーゴールド等約 300 苗を使用した花植えを行い、参加者と三和町の「みわ」の花文字を制作するもので、積極的な環境美化活動による本施策を通じて、事件・事故の発生抑止だけでなく、参加者との情報共有や連携強化につながるなど、府民防犯の日におけるステーション活動の模範となる活動になったと思います。



２つ目は、三和町の民家付近に出没するクマ対策として、ドローンを用いた上空からの防犯対策訓練を実施しました。これは、防犯推進委員の三和支部支部長である私の家の敷地内で行いました。この地区は例年クマの目撃や被害の情報が多発していることから、地域住民の今後の安全対策について三和駐在所員等と協議し、関係協力機関である無人航空機養成協会やクマ等有害鳥獣に係る関係行政団体や地元猟友会と連携協議を重ねました。当日は、クマの出没情報により駆けつけた関係団体と連携し、ドローン搭載の拡声器による上空からの近隣住民への情報発信活動のほか、ドローンの拡声器から猟犬の声を流し、上空からクマに向けた威嚇音声により山林へ追い返す訓練となりました。

３つ目は、学童警戒犬です。小中学校の通学路で飼っておられる柴犬を学童警戒犬として任命し、子どもたちと地域を見守ってもらう活動です。写真に写っています学童警戒犬は「綾香ちゃん」という９歳の柴犬で、とても人懐っこい犬です。登下校時の子どもたちが可愛がっていたのを目にし、飼い主さんの協力を得て犬小屋を交番型にアレンジし、通学路に置きました。「犬の交番」「犬のおまわりさん」があることで、この場所を登下校する子どもたちは安心ですし、不審者にも目立って犯罪をさせにくい環境にしています。

4つ目は、「こども110番の車」です。皆様お馴染みの「こども110番の家」はたくさんあるのですが、これまで協力していただいていた方々が高齢化で、デイサービスの利用等で終日留守になる家もあると聞いています。そこで、三和町内を走行する行政機関や青色防犯パトロールカー、移動スーパー、民生委員や介護に関係する車両等にこのマグネットステッカーを貼ってもらい、町内を走ってもらっています。現在は約90台が毎日走っています。走るだけで「ながら見守り運動」の1つとなり、非常に有効かと思います。協力団体は普段通り仕事をしながら、緊急時には子どもたちの安全を見守る活動をしています。



これまで三和町の特徴や取り組みについて説明してきましたが、今後もこれらを継続していくためには課題もあります。1つは「活動の担い手となる人づくり」です。防犯活動に義務や仕事のような感覚で参加していては今後の継続が困難なため、犯罪を起こさないための防犯活動を多くの地域住民に参加してもらうため、楽しく取り組める工夫を取り入れながら、活動の担い手を確保しています。

もう1つは、「活動の持続性を高める組織づくり」です。大人や高齢者は子どもの安全を守り、子どもたちは高齢者の安全を守るといったサイクルができあがれば、町の安全は自然と良い方向に向かっていくと思われます。そのため、子どもから大人、高齢者まで、地域住民の相互連携と防犯活動の循環ができる参加型の活動を取り入れながら、持続性を高めていきます。

①子供＋防犯活動

信用金庫の日 特殊詐欺被害防止啓発活動

こども園「ひまわりの絆プロジェクト」

これからその一端をお見せします。

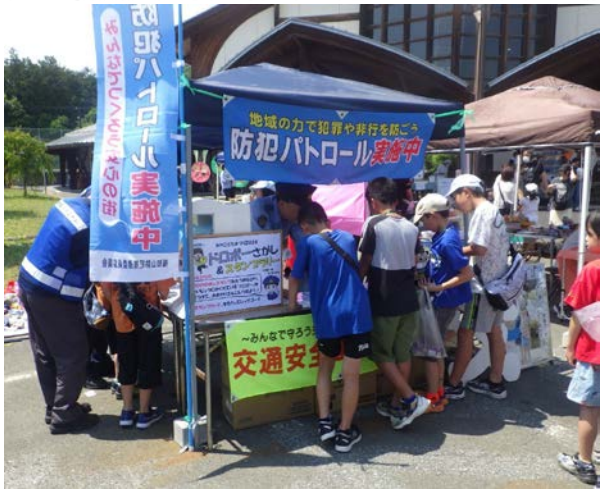
まず、子どもたちと一緒になった活動として、京都府警が被害者支援活動として平成 26 年から取り組んでいる「ひまわりの絆プロジェクト」です。これは、交通事故で亡くなった児童が育てたひまわりを毎年様々な場所で育てて次の年につないでいく活動で、三和町でも保育園で種まき式を開催し、ひまわりの育成を通じて交通事故防止を啓発しています。

また、年金受給日と合わせた防犯イベントを金融機関で開催し、年金受給等で訪れた高齢者等来店客に対し、駐在所員及び防犯ボランティア、さらに高齢者の孫にあたる保育園の園児たちが変装して、童謡「桃太郎」の防犯替え歌を歌いながら啓発活動を実施し、啓発品として準備した花の種を来店客に配布するなどの特殊詐欺被害防止啓発活動を行っています。

②地域行事＋防犯活動

大原神社節分祭

三和荘フェス・こどもまつり



次に、地域行事に合わせた防犯活動です。三和町にある大原神社という大きな神社で、節分の時期に開催されるイベントや、５月頃に地域の子どもたちのために開催される「こども祭り」などで防犯ブースの出店や鬼の仮装による詐欺防止の呼びかけを実施し、イベントに参加した地域住民に対して、楽しく防犯を意識してもらっています。

③季節＋防犯活動

おばけカボチャ（パンプキン）による還付金詐欺防犯対策

12ちびっ子サンタによる詐欺対策

また、季節に応じた防犯活動として、ハロウィーンには金融機関でカボチャの制作を地域住民らと行い、カボチャにかけて「パンプキン詐欺」の防止というようなことで、金融機関の利用者に詐欺防止の啓発活動を行ったり、クリスマスには三和町の保育園児たちと協力してサンタクロースの仮装により地域住民に対して防犯を呼びかけるなどの活動を実施することで、警察や防犯ボランティア団体だけでなく、地域を巻き込んだ形で楽しみながら防犯活動を推進しています。

このように活動の課題となる「活動の担い手となる人づくり」「活動の持続性を高める組織づくり」を意識して、みんなが協力しながら町の安全安心に貢献しています。以上です。ありがとうございました。

講　評

【桃山学院大学 木村 佐枝子 先生】

発表ありがとうございました。まず素晴らしいと思ったのは、地区・地域でネットワークを作っておられて、いろいろな団体が地域の安全のために関わっていらっしゃるということです。そのネットワークをすでに平成 23 年に作られていたということも驚きです。連携・協力体制が非常に整っており、団体同士のつながりができていて、とても素晴らしいネットワークをお持ちであると思いました。

活動内容については、いろいろな仕掛けをされているなと思いました。高校生をはじめ、小学生や保育園児等、たくさんの若い世代が関わっている活動があって、子どもの時から規範意識をどう育てるかは大事なことなので、子どもの頃からこういった関わりを持つことによって、地域への愛着も生まれてくると思います。

学童警戒犬の取り組みも面白い活動だと思いました。おそらく子どもたちもワンちゃんのいる道を通るのが楽しみになっているんじゃないかなと思いました。

また、「こども 110 番の車も」とてもユニークな活動だと思いました。これは全国的に見ても他にはない活動だと思います。私も初めて聞きました。防犯活動が固定化しがちというのはあると思うので、地域のサポーターをたくさん集めて、「ながら見守り」をするというのはとてもよい活動だと思いました。

どれも素晴らしい活動で、これらの活動を継続するために大変な努力をされていますが、ぜひ子どもたちにこういった機会をたくさん与えていただいて、新たな担い手を育てていただければと思います。ありがとうございました。

仰木の里学区自主防犯協会（滋賀県）

滋賀県大津市から来ました、仰木の里学区自主防犯協会会長の五十嵐源三と申します。今日は事務局長であります新道正宏が、パワーポイントを操作します。よろしくお願いします。

まず私たちの活動地域を紹介させていただきます。JR 大津京駅から湖西線で、おごと温泉駅まで約 10 分で着きますが、その駅から山側に徒歩で 10 分ぐらい行った所が、私たちが活動している仰木の里です。仰木の里はもともと仰木地区という所があるのですが、ここの歴史が古くて、1400 年くらい前から開けている所なのです。その田園を旧住宅・都市整備公団が開発し、そこに私たちが住んでいるわけです。私たちの防犯協会は、主体は仰木の里学区なのですが、仰木学区にも入っていただいて一緒に活動しています。

人口は、仰木学区が 800 世帯、人口は 1,700 人で、面積はちょっと広くて、京都の県境のところまであり、約 750 ヘクタールです。仰木の里学区は 5400 世帯で人口は約 13000 人です。ところが、面積は仰木学区の 4 分の 1 ぐらいで、185 ヘクタールぐらいの本当に小さい所です。そこで私たちは活動しています。

団体の概要:仰木の里学区自主防犯協会

平成２６年７月に機動力を生かした地域の防犯パトロールを行う目的で、青色回転灯装備車（通称青パト）で活動する「仰木の里学区自主防犯協会」を発足しました。

子どもの見守り活動や地域の防犯パトロールを実施しています。

青パト隊員　２２名
青パト登録台数　１７台
（うち専用車両１台　個人車両１６台）

（令和７年４月現在）　3

私たちが住んでいるところには、保育園が２つ、幼稚園が２つ、小学校が２つ、中学校が２つ、それから高校は２つで大学が１つあるという、ものすごい学園都市です。滋賀県で一番と言っていいぐらいの学園都市になります。そんなわけで、子どもたちも大変多くおりまして、その中で活動しています。

次に、団体の概要ですが、平成 26 年 7 月に防犯協会を作り、それから 11 年ぐらい経つのですが、青パトを主体とした活動をしています。青パト隊員は 22 名、パトロール車両の台数が 17 台です。そのうちの 1 台は、日本財団から助成をいただいて、専用車にしています。あとは個人の車両が 16 台となります。以上の 17 台で地域の見守りをしながら防犯パトロールをしております。

主な年間活動（日常の活動）

① 各隊員月４回の防犯パトロール実施

② 毎週水曜日　小学校（３校）下校時見守りパトロール実施

③ 毎月３日、１８日　１９時から２０時　夜間パトロール実施
（コンビニエンスストア等巡回）

④ 毎月第１金曜日　理事会開催
隊員の免許更新、青パト登録車の車検日確認、
行事結果確認、行事予定確認など

⑤ 毎月、まちづくり協議会防災・防犯・安全部部会に
参加し、安心・安全なまちづくりを目指して活動

年間の活動ですが、青パトについて決まりがありまして、月に４回以上活動しないといけません。そういう決まりがあります。それで必ず全員が月４回､年間 48 回以上はパトロールをします。月に４回実施できなくても、年間で 48 回実施していただくようにお願いをしています。このパトロールは朝・昼・夜、いつでも構いません。できるときに巡回してもらっています。

当初は個人で実施する方法で行っていました。その間、どういう体制で実施しているかが各個人に任せっきりだったのですが、５年ほど前からは、みんなで集まって、連携を取りながら実施しています。毎週水曜日に子どもの挨拶運動が終わってから、下校時にパトロールをすることになりました。

小学校の見守りの様子　１

・毎週水曜日児童下校時見守りパトロール
（仰木・仰木の里・仰木の里東各小学校）

各小学校へ向かう前に、ミーティングで活動の班分けを行います。

下校する子どもに挨拶をしたあとに、青パト車で防犯パトロールに出動します。

なぜ水曜日にしたかと言うと、水曜日は先生方の職員会議がある日なのです。そのため、小学生が一斉に下校します。普段ですと、1年生、2年生それぞれバラバラに帰るのですが、水曜日は全学年が一斉に帰るということで、その日にしようとなりました。

小学校へ向かう前に集まってもらって、どこの小学校へ行くか割り振りをします。「今日は誰々さんが誰々さんと一緒にどこの小学校へ」と。仰木の里学区には小学校が2つあるのですが、仰木学区にも1つあります。ですから3つの小学校へ分かれていくようにしています。

小学校の見守りの様子　2

子ども達の元気な挨拶が励みとなります。

子ども達が帰宅後は、地域を見守る
防犯パトロールを継続します。

6

このスライドのお猿さん見えますか。ぬいぐるみを着ているお猿さんです。このお猿さんが小学生にすごい人気があるのです。お猿さんも一気に3つの小学校へは行けませんので、まず1つ目の小学校へ行って、下校時間内に2つ目の小学校までは行けるのですが、3つ目の小学校へは時間が足りなくていけません。それで行けないと、「今日お猿さんはどうしたの？」「お猿さんどこへ行ったの？」と小学生から聞かれます。

下校時の子どもたちへの挨拶が終わったら、各地域のパトロールを行います。中には、バラバラに帰って、子どもが一人二人になる時もあるので、注意深くパトロールを行います。子どもたちも下校途中でパトロール車両を見かけると手を振ってくれます。

この車ですが、「パンダ号」という名前を付けました。なぜパンダ号かというと、パンダみたいな色をしているからです。この車両は日本財団から助成をいただいて作りました。今から4年前ぐらいです。この車両が日本財団の最後の青パトの助成だったそうです。一番最後にやっと取れたという感じです。

令和6年度：年間パトロール活動

〇年間巡回回数　1，559回

〇巡回距離数　21，530Km

〇下校時巡回回数　375回

〇夜間巡回回数　　242回

●専用車（パンダ号）
　年間巡回回数　193回、年間巡回距離数　3，247Km

7

次は、令和 6 年度のパトロール活動の詳細ですが、年間巡回回数は 1559 回です。これはパンダ号を除いた分です。それから巡回距離数は 2 1 000km ぐらいです。17 台合計の分です。それから下校時の巡回回数が 375 回です。また、夜間巡回回数が 242 回です。それから専用車のパンダ号は、年間巡回回数が 193 回、年間巡回距離数は 3247km となっています。

春・秋の全国交通安全運動での活動

旧１６１号線沿いの飲食店（かつ源）の開店前の駐車場で、
交通安全協会と防犯啓発運動を実施しました。

8

このスライドは春・秋の全国交通安全運動の時です。交通安全協会と一緒に、防犯の啓発をしています。こちらが「万引きは犯罪です」というのぼりの防犯協会、その向こう側は交通安全協会の方です。当日は、朝の 7 時半から 8 時 10 分の間に、通勤の車が多く通る県道で約 40 人の方に集まっていただいて 30 ～ 40 分間啓発を行いました。こうして、防犯協会と交通安全協会が同じ日に一緒に活動しています。

青色回転装備車出陣式（管内パトロール）

（仰木～仰木の里全域） 年2回実施

大津北警察署と合同で不法投棄のパトロールを実施。

大津市長、大津北警察署長、市議会議員、学校関係者、地域団体役員列席

参加台数16台（令和６年度）

9

次のスライドです。これは令和６年６月ですが、こちらは大津市長、それから大津北警察署長、市議会議員、それから学校関係者、地域の団体のみなさんに集まってもらって、出動式を毎年１回行っています。青パトの活動が地元の人にあまり知られていない状態なので、デモンストレーションをすることによって、地域の人にも知ってほしいという思いがあります。

仰木学区には山があり、不法投棄をされることがあります。そのため、山の中に入っていく見回りを年2回行っています。常に目を光らせて、「ここは青パトが回っていて、不法投棄をできない」ことを知らしめるために、市長、警察署長、議員に来てもらうのです。市長、警察署長、議員に現実を知ってほしいという思いがあって、20km くらい一緒に回ってもらいました。市街地から山へ入っていき、ぐるぐる回って戻ってきました。

親子自転車交通安全教室　応援

仰木の里小学校グランドにて

地域の交流事業

10

こちらのスライドは「親子自転車交通安全教室」の様子です。「全国子ども自転車競技大会」というのが年に１回あります。滋賀県でも代表を選んで、全国大会に出るという流れなのですが、これを防犯協会と交通安全協会が一緒になって取り組んでいます。その一場面です。先ほどお話した３つの小学校の児童を集めて大会に向けた練習をしているところです。

１２月　おごと温泉駅において歳末防犯啓発

歳末警戒夜間パトロール　年末４日間実施

特殊詐欺被害防止や歳末に伴う盗難被害防止の啓発を実施

11

これは年末におごと温泉駅で、夕方の帰宅の時間帯に防犯活動をしているところです。ティッシュや啓発品を配りながら、事故や犯罪に遭わないように各種団体とともに、毎年年末に啓発活動を行っています。

他地区団体との交流･意見交換会

令和５年度　１１月１５日（水）
栗東市金勝学区防犯協議会との意見交換会
（仰木の里支所２階会議室）

令和６年度　９月２５日（水）
長浜市防犯自治会と意見交換会
（仰木の里支所２階会議室）

☆意見交換会後、下校時見守り活動に参加いただきました。

12

令和５年度と６年度ですが、滋賀県の栗東市、長浜市の防犯協会と活動内容の意見交換会を行いました。他地域と交流するのはとても大事なことであり、自分たちの活動が、他の地域の方々に分かってもらえたり、また他地域の活動を私たちが取り入れられる、そういうことをしております。本日参加の皆さんもそういう取組がありましたら、お声掛けいただけたらと思います。

滋賀県防犯協会からの助成金の紹介と活用

13

助成金ですが、青色回転灯、ドライブレコーダー、人が来ると回転するセンサー付きソーラー式青色回転灯などの購入費に活用しています。また、県の防犯協からの助成金はスピーカーの購入費にあてました。ドライブレコーダーと回転灯は全車につけており、、スピーカーは、ほぼ全車につけています。「ほぼ」というのは、スピーカーに関しては、つけられる車とつけられない車があるため、台数が変わってきます。ドライブレコーダーをつけておけば、何かあった時の証拠になります。

センサー付きソーラー式青色回転灯が１つ７～８万円ぐらいして、結構高いのですが、これは地域で４台つけています。５～６割ぐらい補助をいただいているのですが、普段、人があまり通らないところに設置して、特に帰宅時に女性の方が痴漢に遭わないようにしています。設置されているところへ行くと自動的に回転灯が作動して、最初はびっくりしますが、注意喚起と防犯のために設置を進めています。

まちづくり協議会の一員としての活動（令和6年度より）

〇わんわんパトロール隊　結成　（１１月１７日）
　　現在登録　５９匹
　　新年度　１０１匹を目指しています。

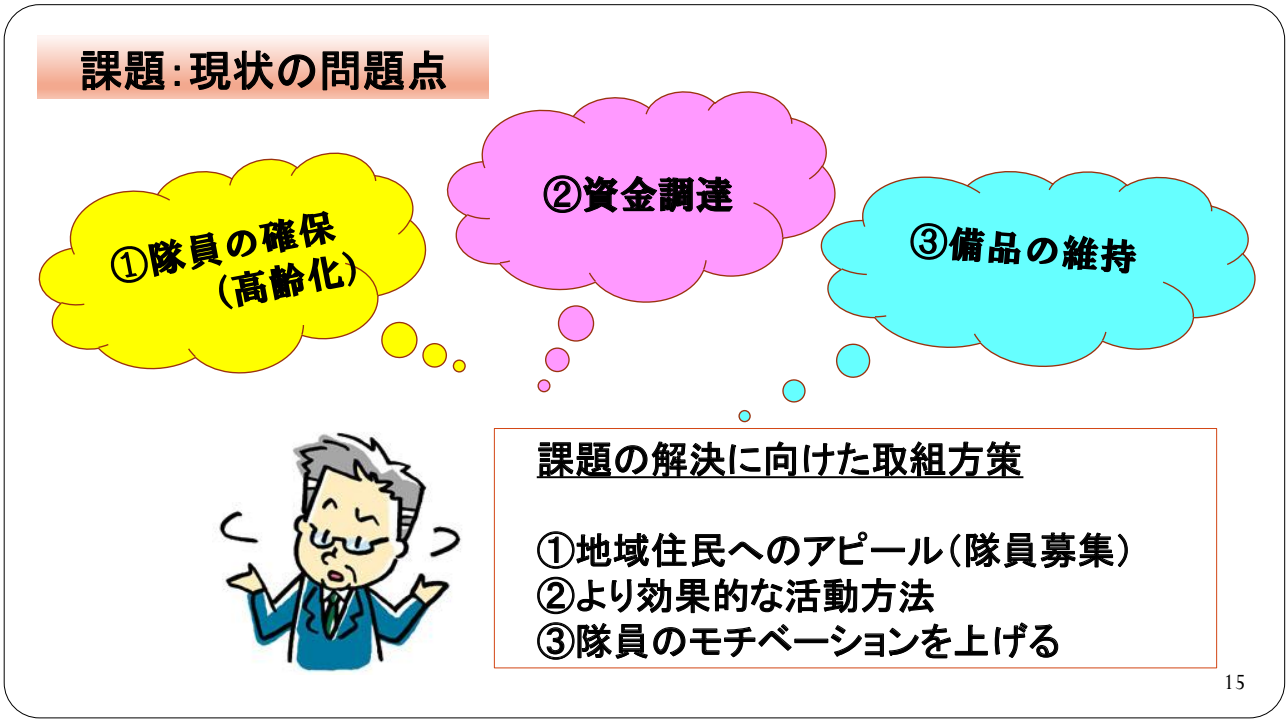
〇防犯研修会実施　（R７年２月２２日）
　　大津北警察署生活安全課長による講習会
　　防犯講習・交通安全講習
　（最近の犯罪事情）
　　高齢者を狙った詐欺犯罪や災害時の防犯について

「知ることで防犯に繋がる」をモットーに継続していきたい

14

まちづくり協議会の一員としても活動しています。私たちの活動自体は、基本的には青パトに乗って地域を回っていくものです。青パトが地域をぐるぐる回ることによって、悪いやつを入れないという形です。ところが、青パトの場合、車から降りることがないので、公園の中とか、車から見えないところ、そういうところをどうパトロールするかが課題になっていました。PTA にお願いをして、保護者の方にも、送迎時の公園の中とかを見てほしいということを何度かお伝えしたのですが、やはり働いている方が多くて、できない部分がありました。そこで考えついたのは犬の散歩です。犬を飼っていると朝晩に散歩をされると思うのですが、その時に協力していただいて、「わんわんパトロール」というタグを犬につけて散歩をしてもらっています。今、60 匹に参加していただいてますが、年内には 100 匹にすることを目標に進めています。公園の中や登下校時に犬の散歩がてらに児童を見守っていただければという活動になります。

それから、「防犯研修会」というのがありまして、これは毎年 1 回実施しています。青パトの場合は 3 年に 1 回、更新の講習を受けなければいけないのですが、当会では毎年その講習会を大津北警察署の生活安全課の課長に来ていただいて実施しています。最近の情報、特殊詐欺ですとか、そういう話をしていただきながら、防犯活動に対する助言をいただいております。



以上が活動内容なのですが、やはり今、問題になっているのは隊員の高齢化です。高齢化をどうするか、また新たに入っていただくにはどうすればよいか。まず人の問題があります。

それから２つ目は活動資金です。どうしたら資金を調達できるのか。

それから、３つ目は備品です。今持っている備品があるのですが、これがいつまで維持できるかが、わからない。以上の３つのことで今悩んでいます。

私たち隊員の年齢層ですが、80 代が５名、70 代が７名、60 代が７名、50 代が０名、40 代が１名、30 代が１名です。平均年齢が 69 歳です。一番若い人で 36 歳、高齢の方は 85 歳という状況で、やはり若年層の方に入っていただきたいです。

それから、資金ですが、行政からの補助金が市から 10 万円、その他の助成で市から４万円あります。そのほか県からの助成が、ドライブレコーダーは２万円まで、青色回転灯は１万円、スピーカーも１万円となっています。足りない分を当会でやり繰りするのですが、まちづくり協議会からもお金をいただきながら、賛助金を企業さんにお願いして、燃料代にしています。

一番費用がかかるのは燃料代です。1km 15 円という規定があり、年間大体 30 万円から 40 万円ぐらい燃料代がかかります。以前は隊員へ燃料代を払っていなかったのですが、そうすると活動もあまりできていませんでした。燃料代を払うことによって活動が活発になって、犯罪が 40 件から 20 件に減りました。

こうした活動をやめてしまうとまた犯罪が増えるのではないかという心配があります。ただ、私たちは暴力をなくすとかそういうものを目指しているのではなくて、声掛けであったり、空き巣や痴漢を防止する、私たちができるのはその程度だと思っています。犯罪が減って、回ってよかったなというのはあります。

以前に金属の資源ごみを出す日に他府県から取りに来る車がありました。金属の資源ごみを資金にしている自治会があるのですが、勝手に持っていかれてしまい、困っていました。その行為を止めなければいけないと、去年 10 月から朝に行っていたパトロールを夜に行うようにしたら、たまたま当会の隊員がその 1 名を捕まえたという事象がありました。不審な車を青パトで追っかけて行ったら、後ろにパトカーがついたので、一緒に捕まえたということになっています。青パトによる抑止で地元に悪いやつが入り込まないようにするのが私たちの使命ですので、これからも頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

■講　評

【桃山学院大学 木村 佐枝子 先生】

ご発表ありがとうございました。こちらの活動は、青パトの活動を中心にされているということだったのですが、発表を聞かせていただくと、子どもに関すること、地域全体に関わること等、幅広く防犯の活動をされているなと思いました。

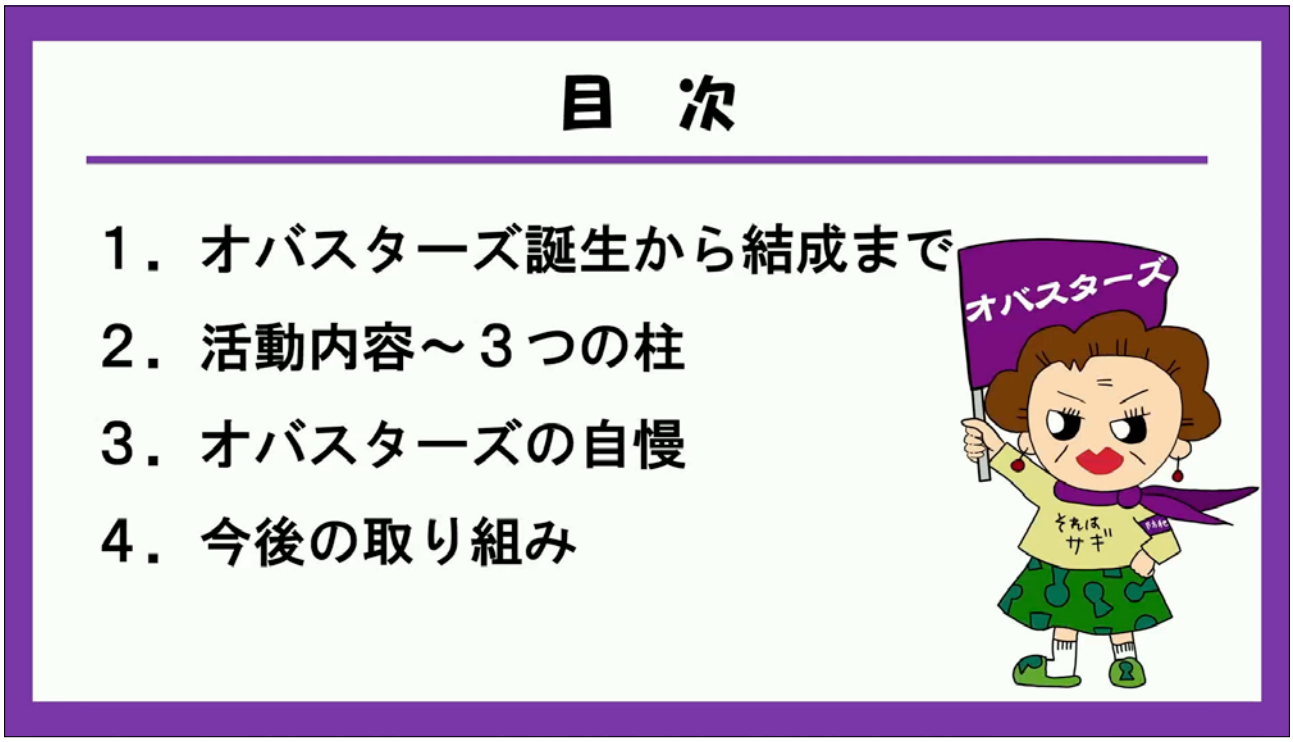
どの活動も本当に素晴らしい活動だなと思ったのですが、その中でも一つ注目したのは、団体同士の意見交換会をされているということです。これは、すごくいい取組だなと思いました。やはり自分たちだけで活動していると、どうしても偏りが出てしまうので、いろいろな団体と交流され、意見交換会をされるというのは、とても素晴らしい取組ですし、今後もぜひ続けていただきたいなと思いました。

課題に挙げておられたことは、どこの団体もおそらく課題になっているところかなと思います。高齢化は全体的に見てもそうですし、60 歳以上が 7 割の団体も多いというデータにもありますので、若い人をどうやって巻き込んでいくかというのは、本当にどの団体さんにとっても課題なのかなと思いました。

資金の問題に関しては、おそらく事務局長さんがいろいろな助成金の情報をキャッチされているのかなと思ったのですが、助成金をうまく使いながら活動するというのはとても大事なことだと思います。青パトの活動をされているので、どうしてもガソリン代はかかってしまいますよね。青パトは活動すればするほどお金がかかるので、もう少し助成金を出していただけるようになるといいですね。せっかく良い活動をされているので、継続できるような仕組みが必要なのではないかと思いました。素晴らしい発表をありがとうございました。

特殊詐欺被害防止対策チーム「オバスターズ」（大阪府）

皆さん、こんにちは。私たち、大阪府代表といたしまして、百舌鳥古墳群のある町、堺からやってまいりました特殊詐欺被害防止対策チーム オバスターズの発表をさせていただきます。発表は代表の宮里眞澄と副代表の丸山芳美が行わせていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

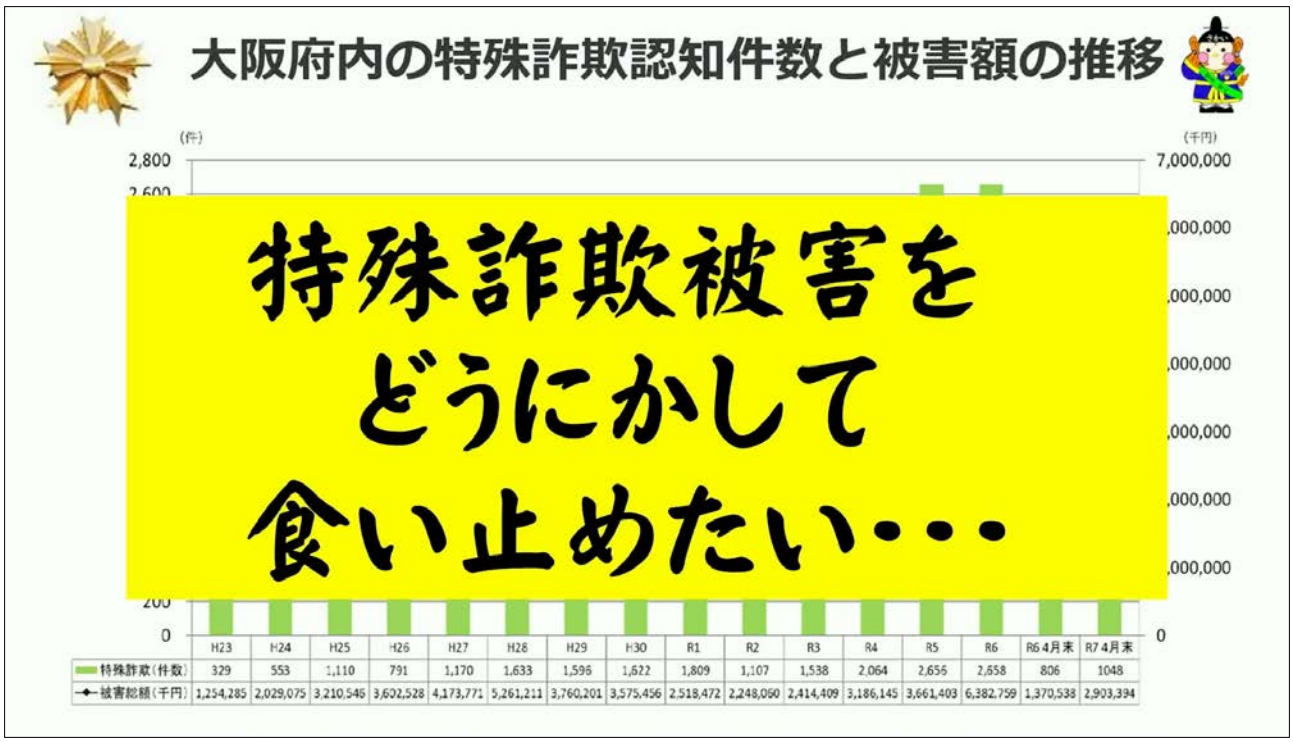


オバスターズは４つの目次に沿ってご説明させていただきます。

①オバスターズ誕生から結成に至るまで

まず、オバスターズ誕生から結成までのお話を代表の宮里からさせていただきます。

今、皆さんにご覧いただいておりますのは、大阪の特殊詐欺の認知件数と被害額の推移です。特殊詐欺の被害は全国で多発しており、以前から社会問題となっております。警察でも様々な取組をされているのですが、歯止めがかかりません。被害が増加の一途をたどっているときに、このオバスターズの誕生ということになるのです。



この特殊詐欺をどうにかして食い止めたいと一生懸命に取り組んでいる女性警察官と私は出会うことになります。私は民生委員をしており、堺区の地域のいきいきサロンで防犯教室などを担当しております。令和４年ごろから堺警察署の生活安全課の中谷さんがよく啓発に来てくれました。中谷さんは、「なかなか詐欺の被害が収まらない」と悩んでおられたのを私は覚えております。

（寸劇動画）

中谷さん：「宮里さん、特殊詐欺の広報を呼びかけるチームを作りたいんです。10 人ぐらい集めてもらえませんか？」

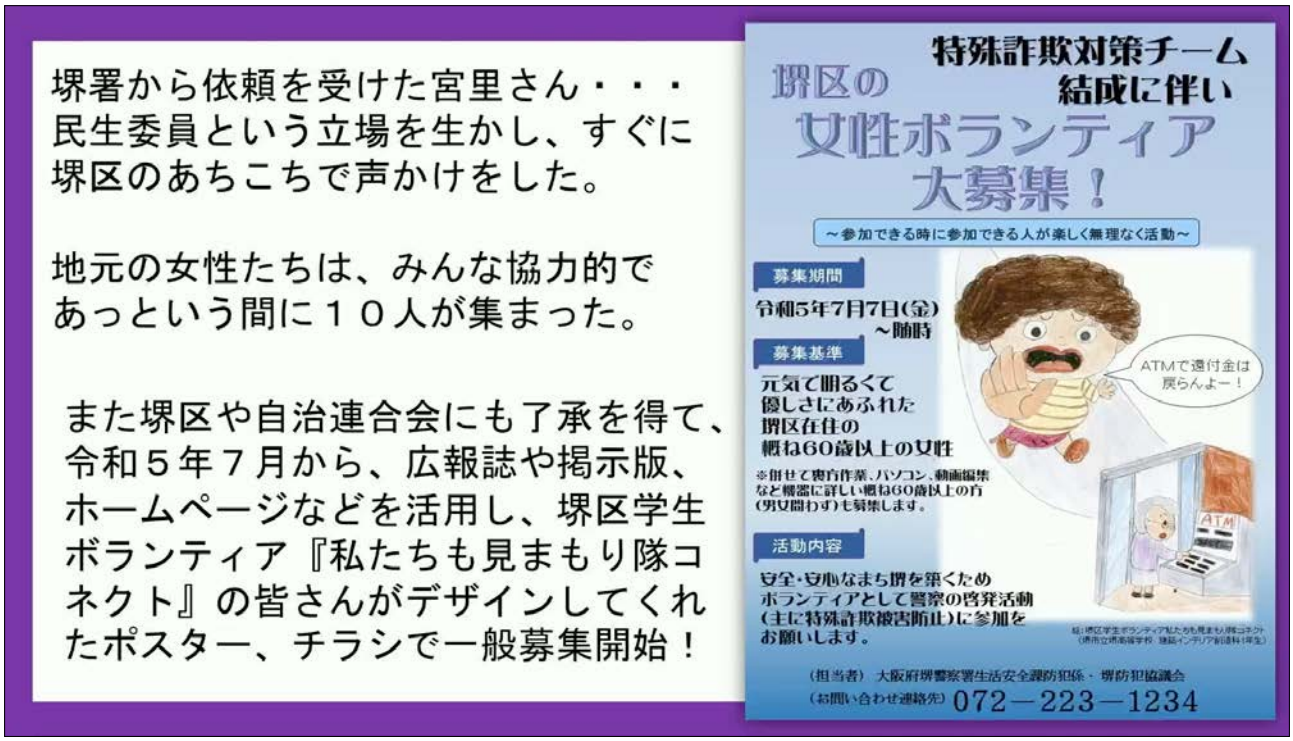
宮里様：「10 人？よっしゃ！任せといて！ 10 人集めるわ！」

（動画終了）

私は中谷さんのことは前から親近感が湧いており、娘のように親しみを感じておりました。だからとりあえず、「それ面白いやん。よっしゃよっしゃ、やったるで。10 人ぐらい集めたるわ」と返事をしたのです。そうしたら後日、本当に中谷さんから申し入れが来て、私、冗談だと思っていたので受け入れたのですが、本当だったのです。中谷さんの想いが大きくて「これは本気なんや。これはやったらなあかん。よっしゃ、やったろか」と思い、腹をくくりました。

中谷さんから言われた私や私の仲間の特徴は、こんなんです。

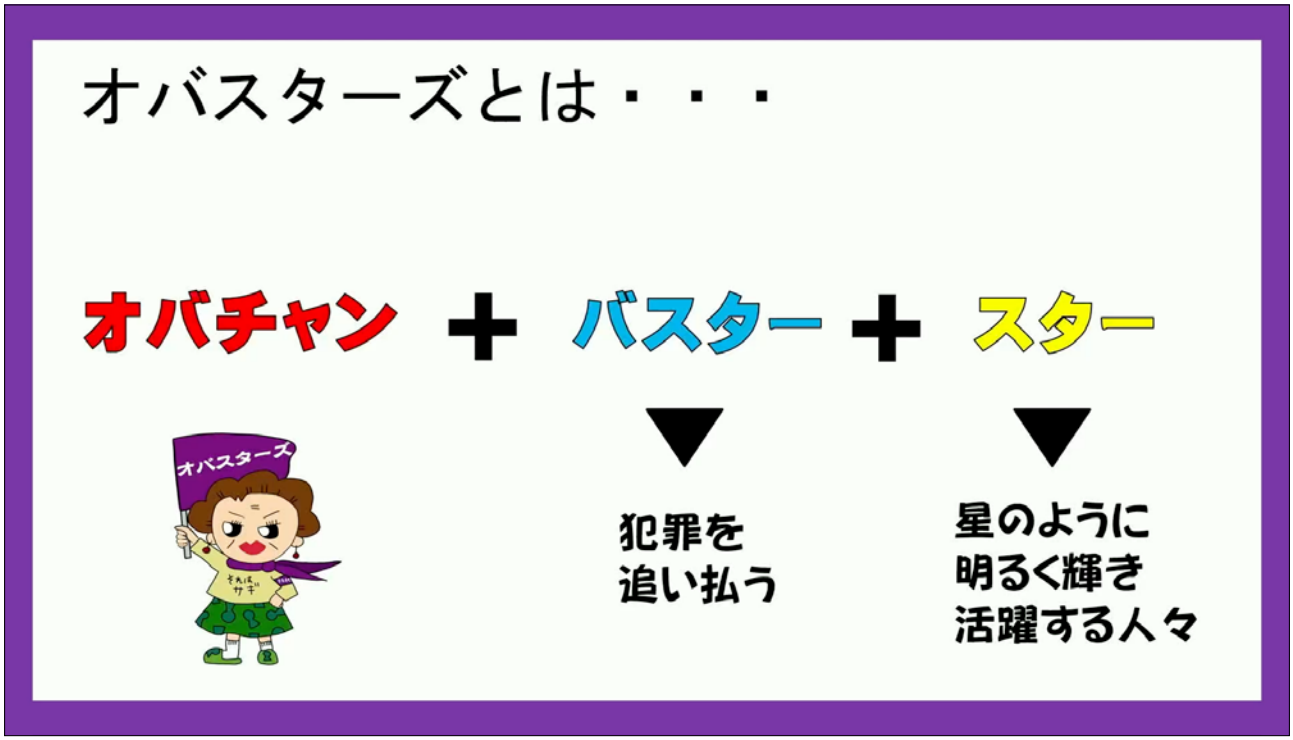
「人付き合いが良い」「おせっかい」「よくしゃべる」「どこで誰とでも井戸端会議が始まる」「何回も同じことを言う」。これらの特徴について、「それは特技や！発信力の高さが半端ない！この特技を啓発に生かす他には手はない！」と考えた中谷さん。いつも防犯教室やキャンペーンで当たり前に伝えているだけでは、隅々まで行き渡らない。被害者になる年代と同世代の人からの話の方が素直に受け入れてもらえるに違いない、と思っておられました。



私は中谷さんから「宮里さん、詐欺の手口をあっちこっちでしゃべってほしいんです。網の目のように情報を広げてもらいたいんです。何卒よろしくお願いします」とお願いされました。そして、このようにあっという間に 10 人が集まりました。そして、警察と一緒に学生たちがデザインしてくれたポスターで一般募集を開始しました。

令和５年８月18日午後、堺市総合福祉会館において、声かけで集まった人々、一般で応募された方々、堺市在住のおおむね60歳以上の女性約20名が集まり、説明会を行いました。この日に防犯教室が行われ、還付金詐欺被害が多発していることを知り、私たちみんなが発生件数や被害金額、またどのようにして騙されていくのかの手口をしっかりと頭に入れ、どのように対応すれば騙されずに済むのか、それを勉強しました。

そしてこの日にチーム名が「オバスターズ」と名付けられたのです。



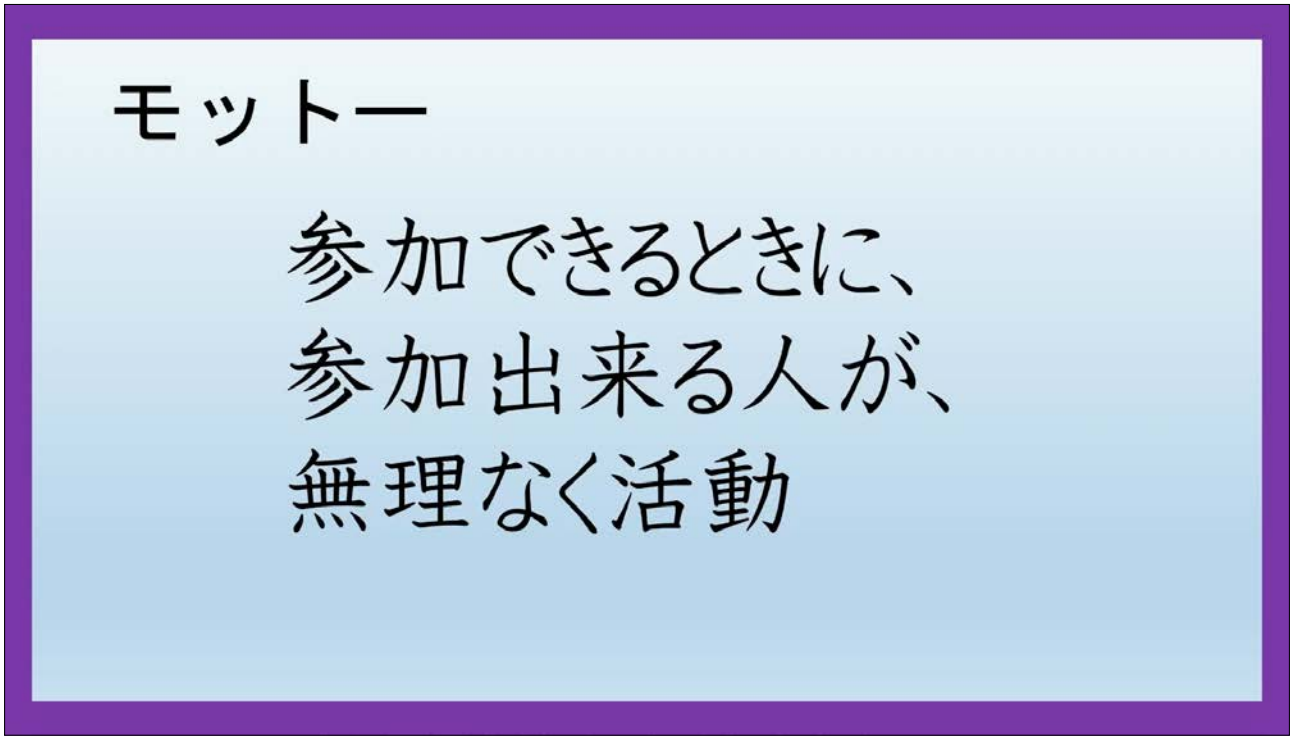
オバスターズという名前の由来については、世にはびこるオバチャン像とは一味違うオバチャンが「バスター」する、つまり犯罪を追い払う「スターズ」、星のように明るく輝き活躍する人々

という意味で名付けられました。はじめは「なんで自分らでオバチャンって言わなあかんの？」っていう声も上がりましたが、今やオバスターズという名はすぐに覚えてもらえて、愛嬌のある自慢のネーミングとなりました。

説明会後の 8 月末からすぐに寸劇の練習が始まりました。なぜなら、1 か月半後の 10 月 11 日に行われる区民大会の舞台でデビューすることになったからです。メンバー全員が毎日寝る前にセリフを覚え、鏡の前で笑ったり、泣いたり、怒ったり、各自でそれぞれ一生懸命練習しました。これは本番 1 週間前の様子です。人前で寸劇を披露するのが初めてでしたので、そのドキドキ感は半端なく、実際に血圧が上がるメンバーもおりました。

寸劇披露が終わった後、大きな拍手が聞こえ、所長から「非常にわかりやすかった。皆さんのパワーを感じました。10 月 11 日はどうぞよろしくお願いします」とお褒めの声をいただきました。

そして迎えた令和５年度 安全・安心まちづくり堺区民大会では、練習の成果を思う存分発揮し、最後のポーズまでしっかりと決め、会場を沸かせました。この日を境に、私たちはオバスターズとして歩き出しました。



「参加できるときに参加出来る人が無理なく活動」、これが私たちオバスターズのモットーです。

② 活動内容～３つの柱

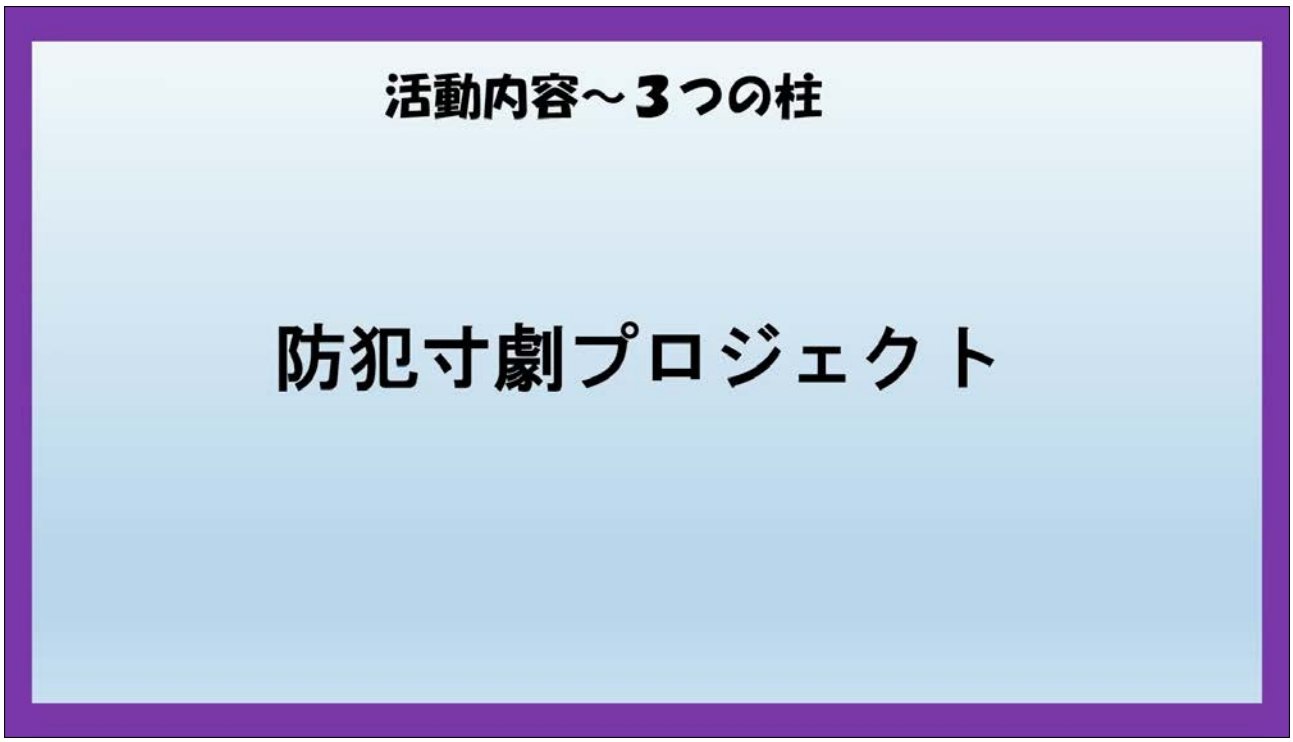
活動内容～３つの柱

１．防犯寸劇プロジェクト

２．無人ＡＴＭ周辺ウォーキングパトロール・
声かけ訓練プロジェクト

３．広報啓発キャンペーンプロジェクト

では次に、活動の内容「３つの柱」をご紹介します。私たちはこちらの３つの柱で活動しております。



まず、１つ目の「防犯寸劇プロジェクト」です。

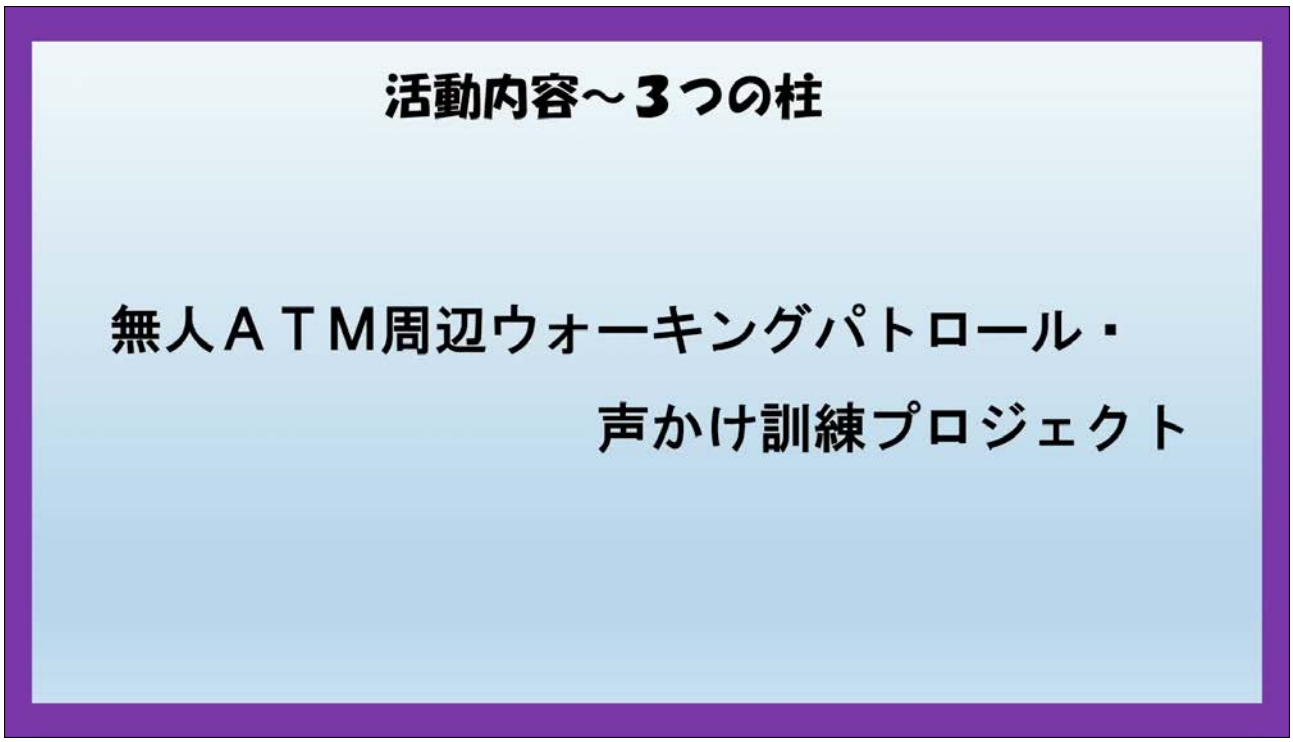
私たちは堺署の警察官とともに出動し、多発中の詐欺の手口を、笑いを交えながら、わかりやすい寸劇で被害防止につなげております。これまでの防犯寸劇の様子を見てください。

これらのためには練習が必要です。練習場所は堺市社会福祉協議会堺区事務所の皆さんのお力添えで福祉会館を無償で使わせていただき、思う存分練習をさせていただいております。それでは、実際の練習風景を動画でご覧ください。

（練習動画）

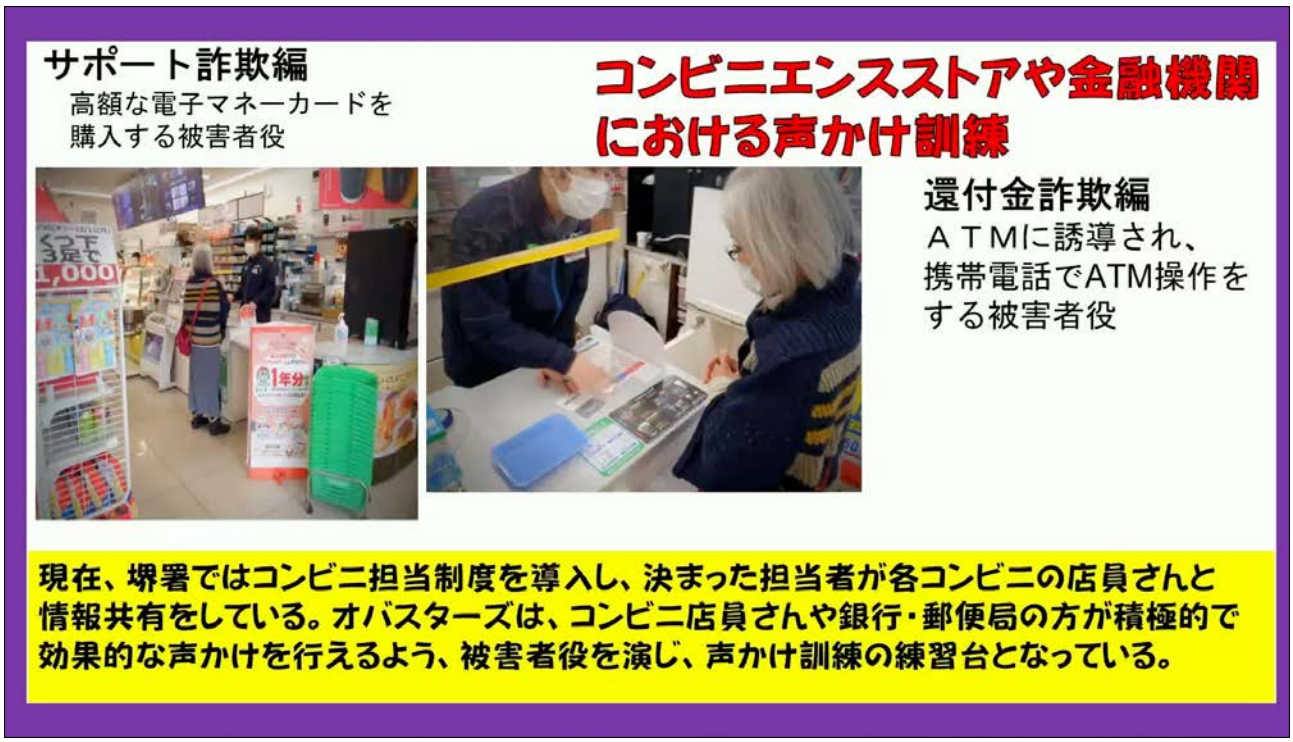
いかがでしょうか。一応、舞台経験のある私が指導をしているのですが、このオバスターズの思いは「アマチュアでも、人の前に立つからには、しっかりと稽古をして、伝わる芝居をする」これが信条なのです。生き生きとみんな稽古に取り組んでおられます。

寸劇の道具類は作業が得意な制作担当のメンバーがおりまして、警察と一緒にデザインを考えて、必要な道具や材料の予算は防犯協議会にお願いをしております。

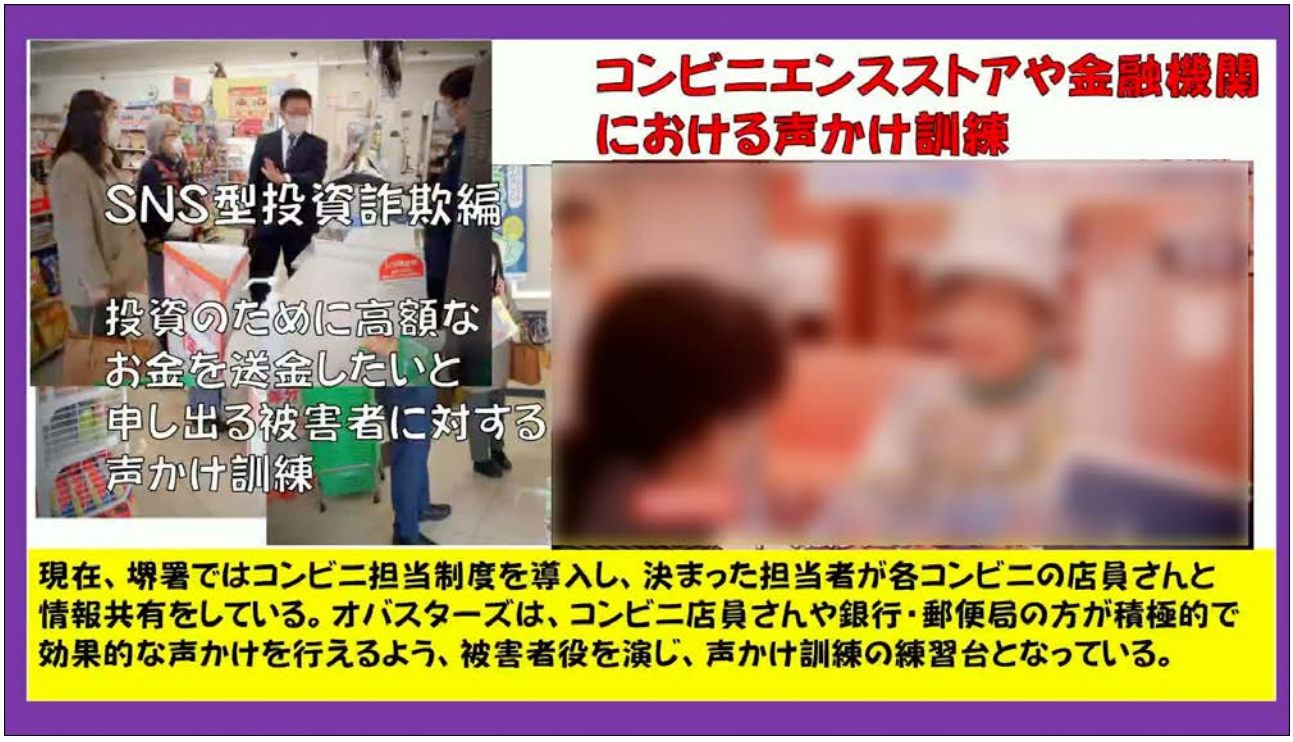


３つの柱の２つ目、「無人 ATM 周辺ウォーキングパトロール・声かけ訓練プロジェクト」についてです。

私たちは実際に詐欺被害が発生した無人 ATM 周辺を警察官と一緒にパトロールしています。携帯電話をしながら ATM 操作をしている方を見かければ、「還付金が返ってくると言われてませんか？」と具体的に声をかけるようにしております。



現在、堺署ではコンビニ担当制度を導入していて、決まった担当警察官が各コンビニの店員さんと情報共有をしているそうです。また､声かけ訓練もたくさんしておられます。オバスターズは、コンビニ店員さんや銀行、郵便局の方が積極的で効果的な声かけができるように被害者役を演じ、声かけ訓練の練習台をさせていただいております。



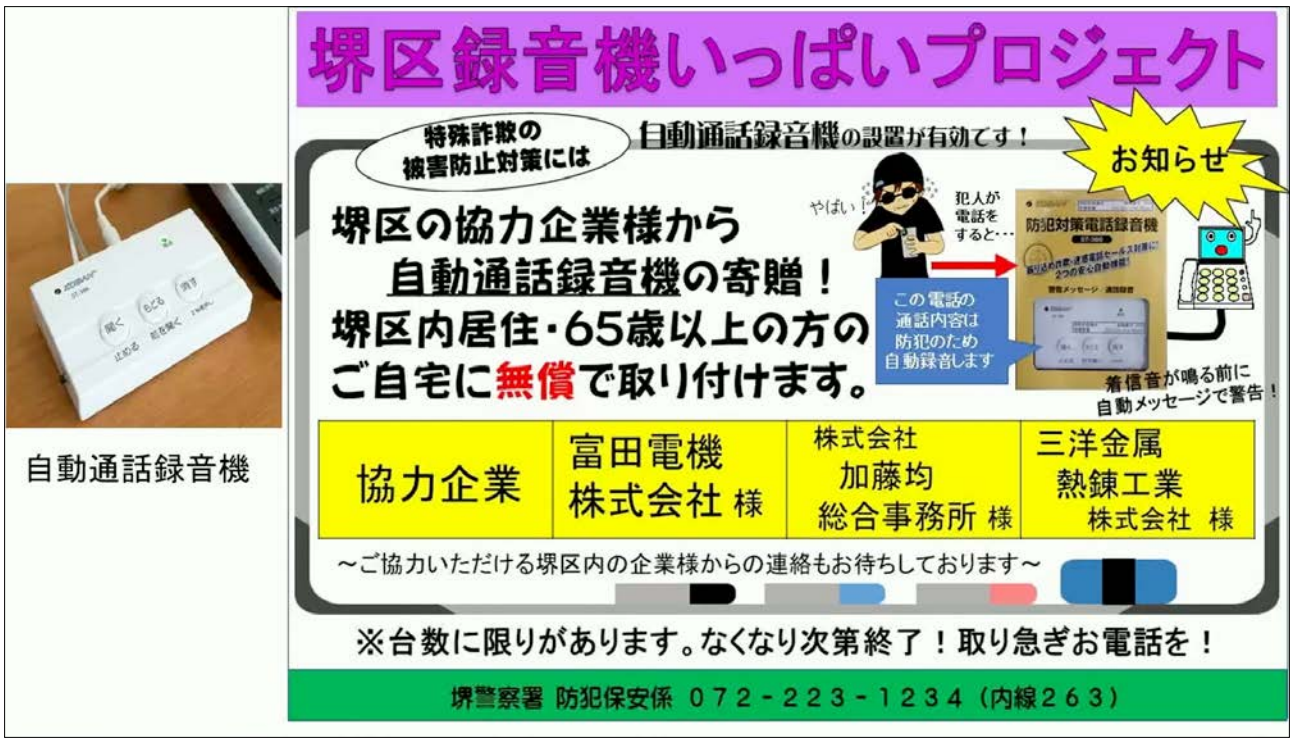
日々の寸劇練習のおかげで、言われた役をパッとすぐに演技できるのが自慢です。

活動内容～３つの柱

広報啓発キャンペーンプロジェクト

３つ目の柱、「広報啓発キャンペーンプロジェクト」についてです。
これまでのキャンペーンの様子をご覧ください。

このようにオバスターズは、警察、役所、金融機関、企業などと合同で、まちぐるみによる広報啓発キャンペーンを行っています。



自動通話録音機

3つの柱以外にも様々な取り組みを行っております。「堺区 録音機いっぱいプロジェクト」とは、昨年6月より堺署が始めたプロジェクトです。協力企業様などから自動録音機を寄贈していただき、堺区在住の65歳以上の希望する方々に、ご自宅に無償で自動通話録音機を設置するというものです。これまで600台以上の自動通話録音機を設置しているとのことです。

写真のように、私たちは警察官とともに自動通話録音機を設置しに行くことがあります。この写真は代表が現場へ設置に行っているところです。取り付けてもらった家の方々からは、「ありがとう。変な電話が多かったんやけど、警察に連絡するか悩んでたんやわ。そしたらオバスターズが連絡してくれたから、こうして取り付けてもらえた。ありがとう、助かったわ」という感謝の言葉もいただいています。皆さん、私たちでも簡単に取り付けられるのですよ。

また他に、堺区の 10 か所の無人 ATM には、録音機能付き音声発声機という、人が通れば反応する機械に私たちの声を録音し、啓発を行っています。例えばこんな感じです。

「ちょっとちょっと、そこのあなた！還付金があるって言われて来たんちゃうん！それそれ、還付金詐欺やで！騙されてるで！ ATM で還付金は戻らへんねんで！ストップ！ ATM での携帯電話！」

関西弁でしゃべっており、自分の声を聞きながら ATM 操作するときがあるのですが、「もういい加減にしてちょうだい」っていうぐらいに音声が流れてきます。実際に犯人に ATM まで誘導された人が、この黄色いポスターを見て振り込むのをやめて未然に防止につながったというケースもあり、これからも続けていきたいと思っています。

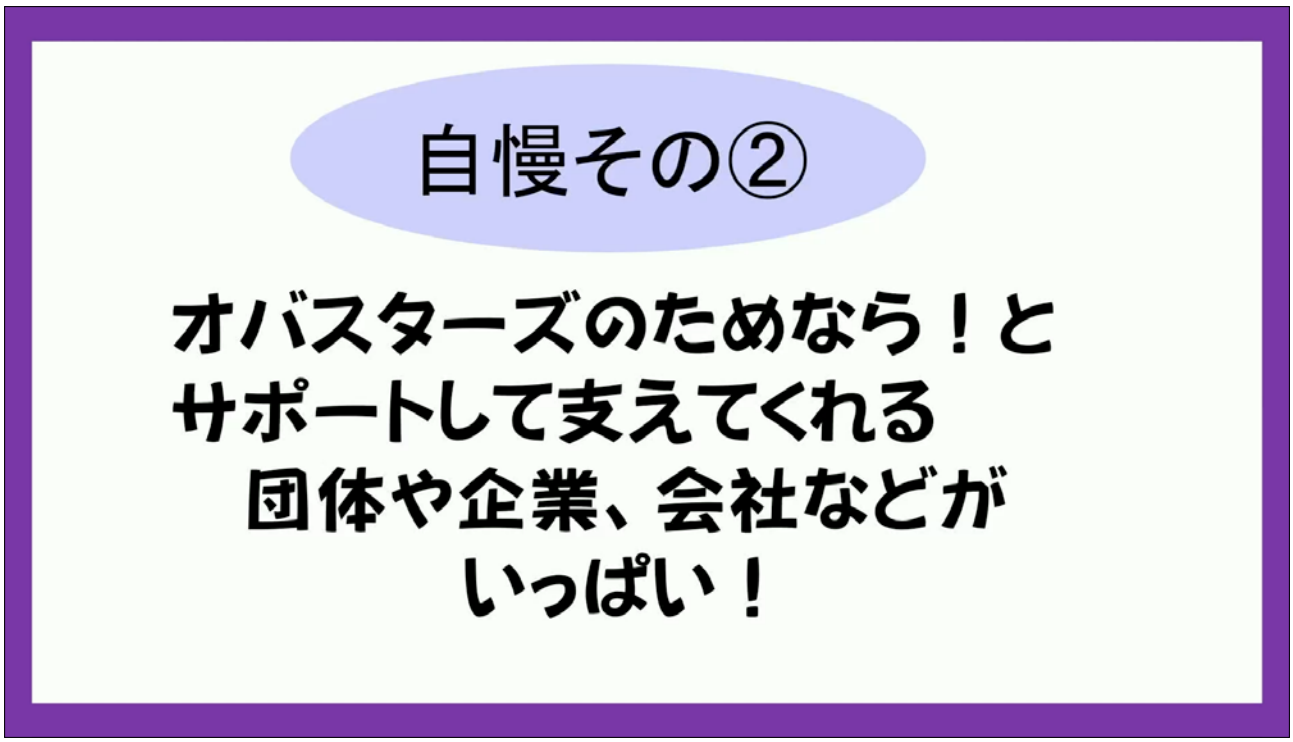
③ オバスターズの自慢

このように３つの柱以外にも様々な取り組みを行っています。
さて、ここで私たちオバスターズの自慢をさせてください。

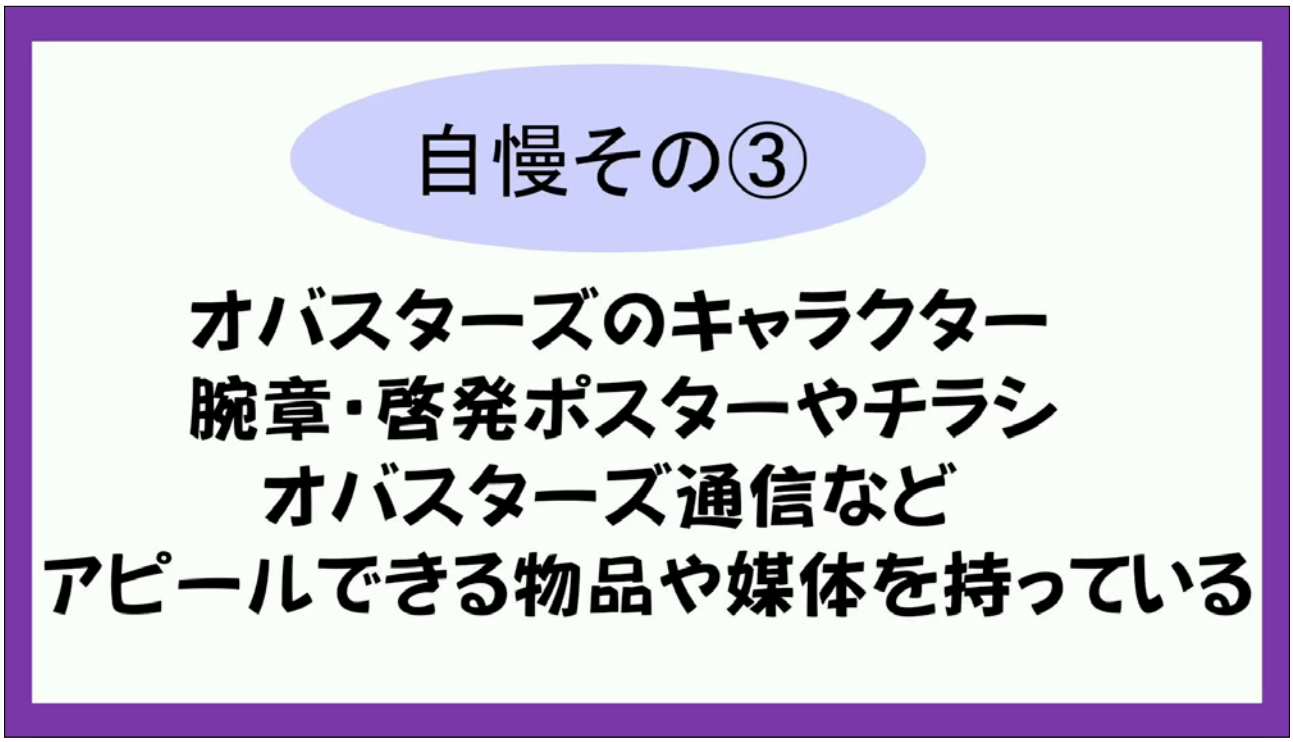
自慢その①

警察から、特殊詐欺等に関する
最新情報を入手し、
堺区民の皆さんに
自信をもって広報啓発ができる！

自慢その１。警察から特殊詐欺などに関する最新情報を入手し、堺区民の皆さんに自信を持って広報啓発ができる。



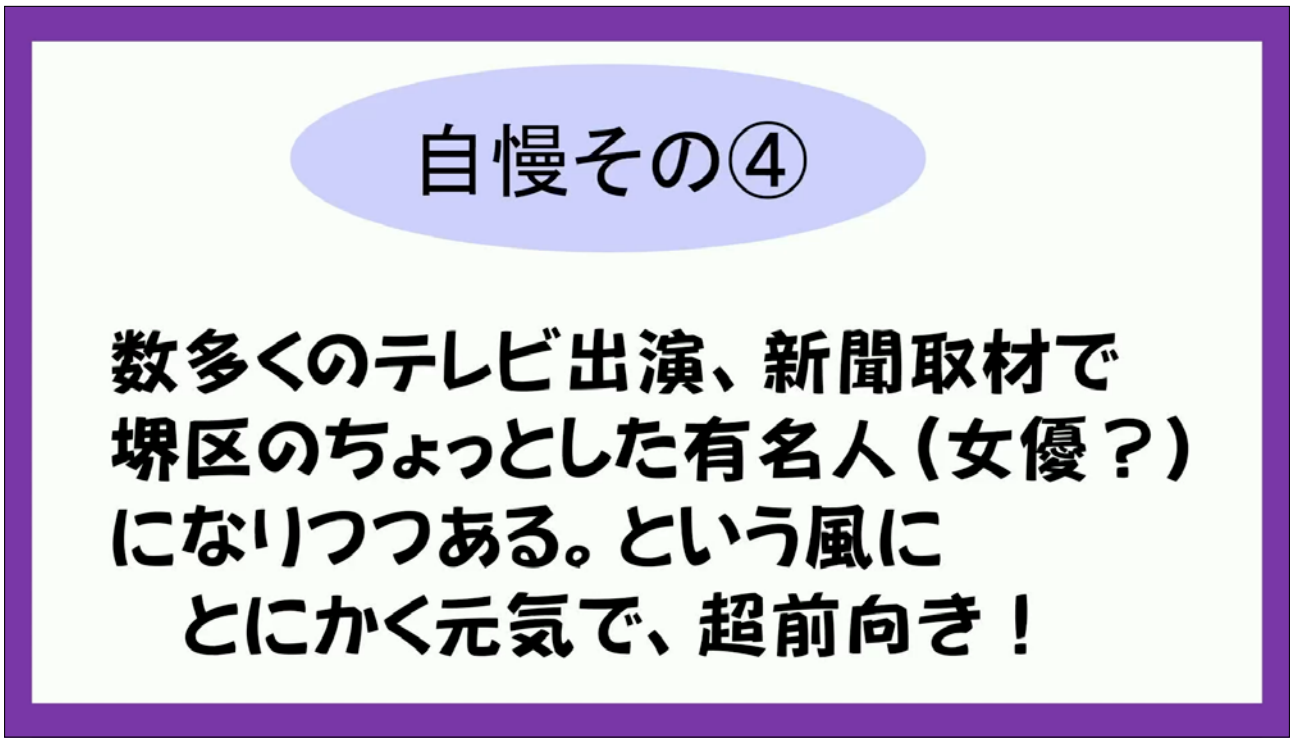
自慢その 2。オバスターズのためならとサポートして支えてくださる団体や企業、会社様などがいっぱい増えました。



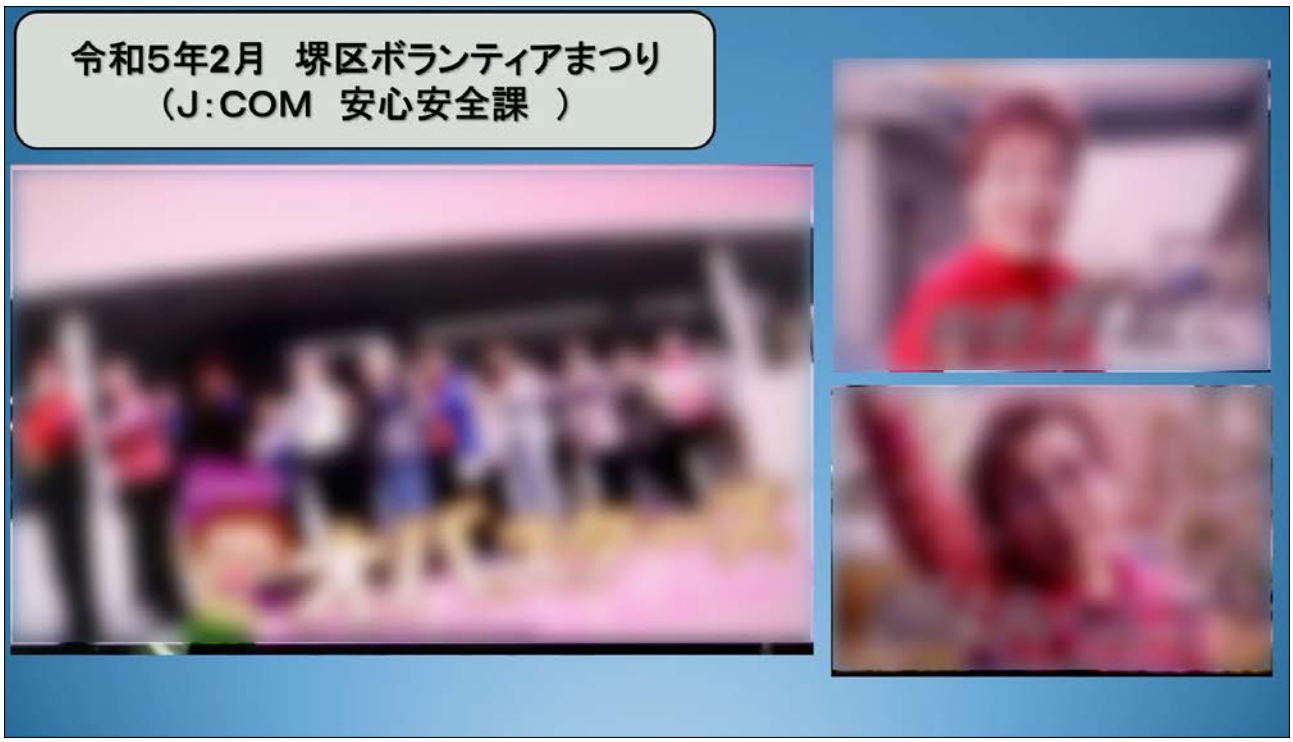
自慢その 3。オバスターズのキャラクター、腕章、啓発ポスターやチラシ、オバスターズ通信など、アピールできる物品や媒体をたくさん持っているということです。

そのいろいろな啓発アイテムですが、オバスターズのマスコットキャラクター、啓発の旗、私たちが出ているポスターやチラシ、私たちが今つけているオバスターズ腕章、そしてオバスターズ通信、それから寸劇で使用するパネルなどです。

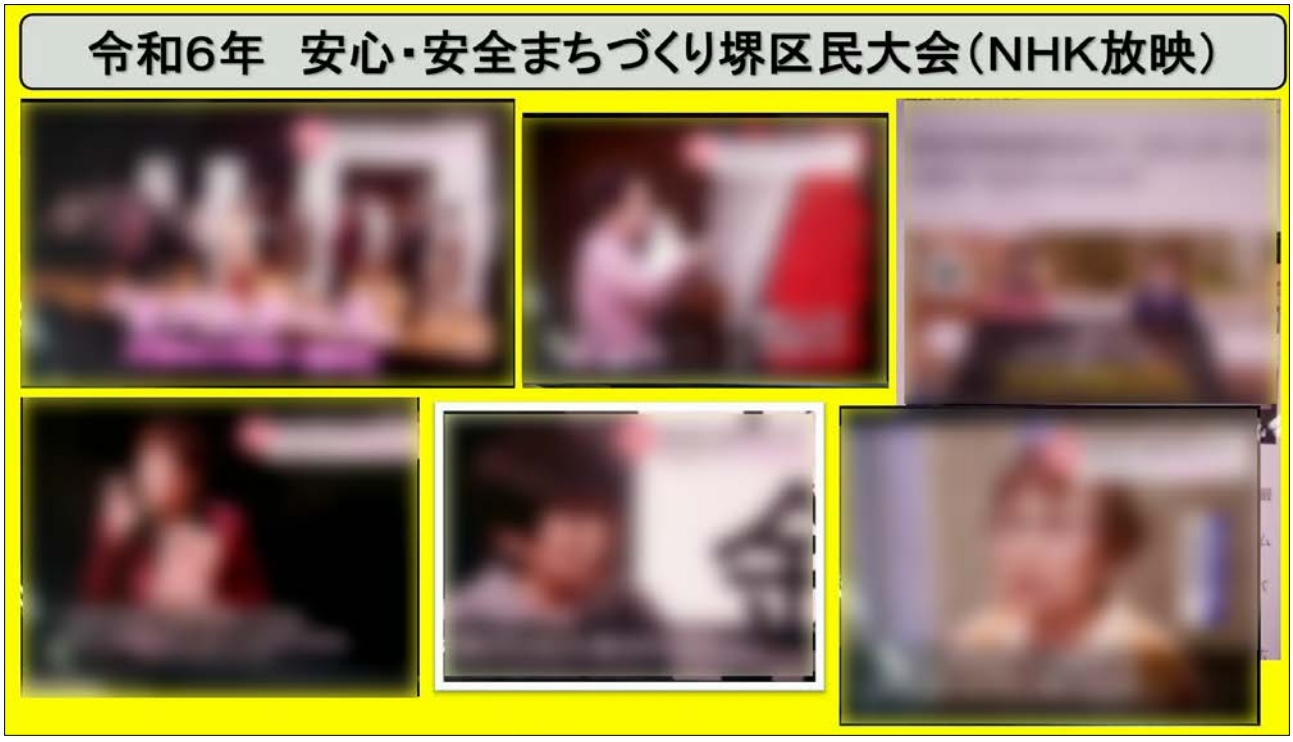
私たちは大阪府警の安まちアプリを活動ツールとして利用しております。私たちの情報は、このアプリやインターネットで「オバスターズ 堺」と検索していただければ見ることができます。



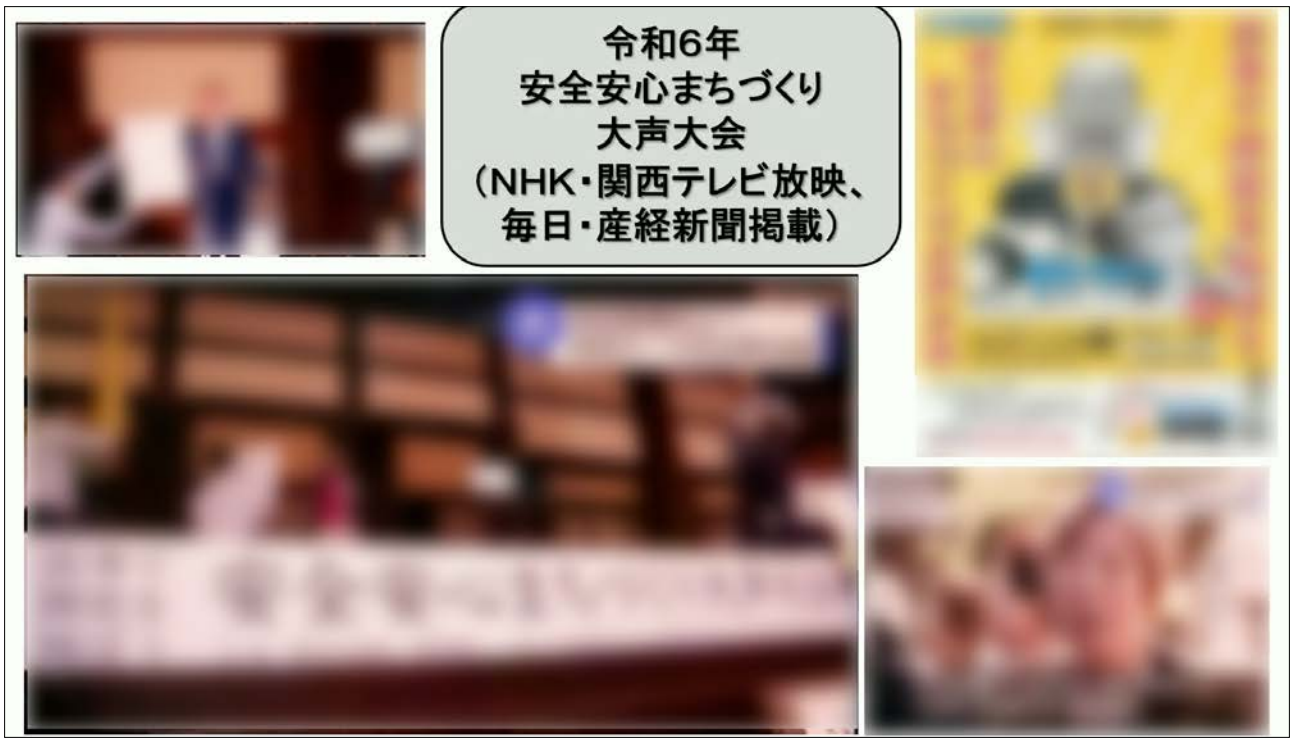
まだ自慢がありました。自慢その 4。実は数多くのテレビ出演や新聞取材により、堺区のちょっとした有名人になりつつあります。結構みんな舞台に慣れてきて、「私、女優よ」というような自信がついてきています。とにかく元気で、すごく前向きな人たちばかりです。



このスライドは令和 6 年 2 月に行われた堺区ボランティアまつりに参加した時に J:COM より初めて取材を受けた時のものです。これが、オバスターズが初めてメディアに出た記念すべきイベントとなりました。



さあ、そこからです。令和 6 年 10 月の 1 周年にフェニーチェ堺で行った安全・安心まちづくり堺区民大会の様子なのですが、この時は朝から NHK の密着取材を受けました。還付金詐欺、サポート詐欺、SNS 型投資詐欺、ロマンス詐欺の 4 本仕立ての寸劇を披露し、その様子が NHK で放送されました。



続いてのスライドは堺区のお寺で実施した「お寺で防犯を叫ぼう！ 安全安心まちづくり大声大会」の様子です。お寺の境内から防犯に関する要望を叫ぶ大声大会で、区長なども参加して大変盛り上がりました。NHK や関西テレビで放映され、毎日新聞、産経新聞にも掲載されました。

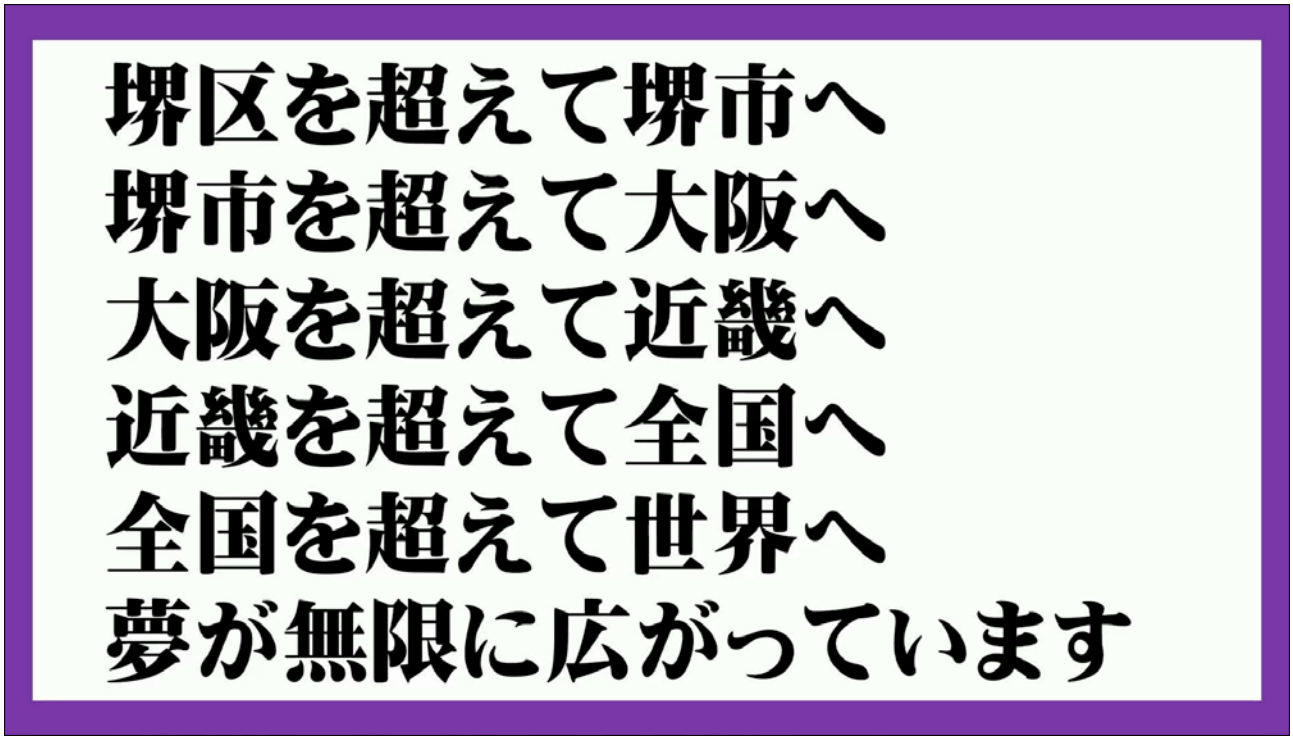
そしてこれはとても楽しい企画でしたが、「詐欺？そんなバナナ！」キャンペーンです。企業様から寄贈いただきましたバナナ 300 本に、「詐欺？そんなバナナ」とジョークを交えたシールを貼って配布し、詐欺の被害防止を呼びかけました。ご覧の通り、オバスターズがバナナの着ぐるみを着ております。本当に体を張って活動しております。これも NHK と MBS で放送されました。

これが１番最近のニュースです。何回か新聞に取り上げていただいているのですが、毎日新聞の朝刊にカラーの記事で、私たちの誕生からこれまでの活動が取り上げられました。

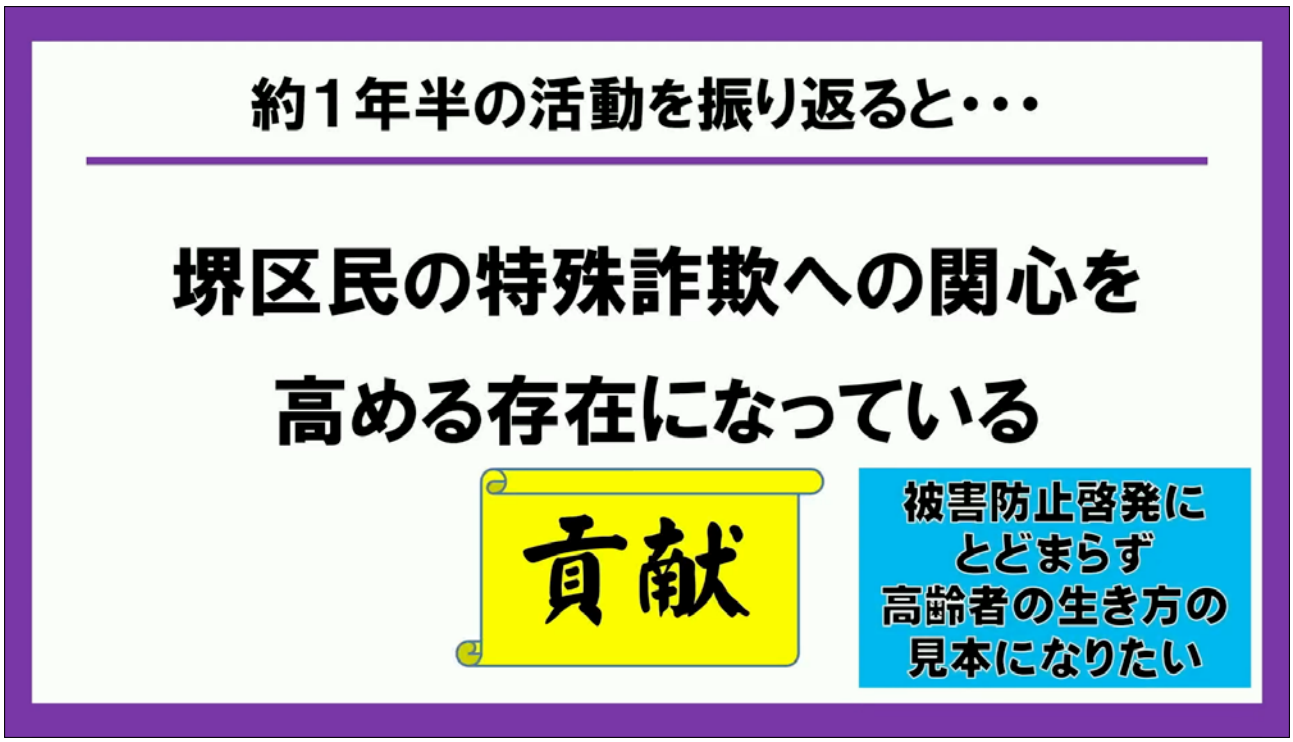
④.今後の取り組み

さて、今後の取り組みです。

現在、堺市とタッグを組んで動画を作成しております。堺市全域の商業施設や駅などで放映するための詐欺防止啓発動画を制作中です。夏ごろには、堺市内のいろいろなところでお目にかかれると思います。



堺区を越えて堺市へ、堺市を越えて大阪へ、大阪を越えて近畿へ、近畿を越えて全国へ、全国を越えて世界へ。夢が無限に広がっていきます。



私たちの約１年半の活動を振り返ると、堺区民の特殊詐欺への関心を高める存在になっていると自負しております。また、オバスターズの存在が、特殊詐欺被害防止のためだけでなく、超高齢化社会における高齢者の生き方の見本（心身健康、ポジティブ、挑戦心）となり、高齢者が元気で犯罪に強い町にするために、動画やポスターなど、様々な媒体を使って、世の中に刺激のある啓発を警察とともに企画してまいります。現在、オバスターズのメンバーは 37 名です。さらにパワーアップし、警察と共に詐欺被害防止に取り組んでまいります。

「大阪の詐欺は私たちがバスターするぞ！」「私たち、オバスターズ！」

ありがとうございました。

講　評

【桃山学院大学 木村 佐枝子 先生】

ご発表ありがとうございました。プレゼンが素晴らしいですね。「丸山さん、アナウンサーですか？」というぐらい素晴らしかったです。

皆さんが本当に生き生きと活動されている、しかも楽しく活動されているというのが、この活動の活性化につながっているのかなと思いました。特殊詐欺の防止に特化した活動ということなのですが、寸劇をされたり、ウォーキングパトロールをされたり、広報活動をされたり、具体的に詐欺の中身に踏み込んで、詐欺の手口のどこが本当に危険なのかということを、直接声かけをしてくださっていることで、それが具体的で効果的な活動につながっているのかなと思いました。

失礼な言い方になってしまい恐縮ですが、やはり「おばちゃんネットワーク」が素晴らしく、大阪ならではの活動として、全国に広がっていく活動ではないかと思いました。この「関西弁で語りかける」というのがとても効果的なのではないでしょうか。私は静岡から大阪へ引っ越してきて間がないので、ちょっとまだ大阪の人間になりきれていないので、あまり関西弁をきちんとわかってはいないのですが、すごく伝わるんじゃないかなと思いました。皆さんがやっておられる活動の紹介で、本当に「女優」と言っていいような寸劇の成果も見せていただきましたので、ますますお元気でこの活動を続けていただけるとありがたいなと思いました。素晴らしい発表をありがとうございました。

美方警察署 安心･安全アンバサダー「ももいろクロおばあZ」（兵庫県）

こんにちは。美方警察署 安心・安全アンバサダー「ももいろクロおばあ Z」です。いつもダンスで体を動かしていますが、今日は口を動かして発表させていただきます。よろしくお願いします。

兵庫県の日本海側にある新温泉町は、大阪から JR　3 両編成の特急はまかぜ号で 3 時間 45 分あまりのところにあります。町の玄関、浜坂駅に着くと、白い湯気を上げた温泉のモニュメントが出迎えてくれます。この浜坂から少し西へ向かった鳥取県との県境にある居組（いぐみ）を拠点に活動しているアイドルグループ、それが私たち「美方警察署 安心・安全アンバサダー ももいろクロおばあ Z」です。

美方警察署は、兵庫県の北西部に位置し、北は日本海、西は鳥取県と接する広大な美方郡を管轄しています。管内は数多くのレジャー施設やカニなどの特産物でも有名であり、季節を問わず多くの観光客が訪れます。一方、他の市町と比較して高齢化率が高く、高齢者が被害者となる事件や事故が後を絶たない状況であったため、2024 年 3 月、美方警察署 安心・安全アンバサダーに任命され、ダンスを通じた防犯活動を展開しています。

そんな「ももいろクロおばあ Z」は 2022 年 11 月結成、平均年齢 63 歳、5 人組女性グループです。メンバーは最年長 70 歳で、ちょっぴり天然な赤色のれいちゃんを筆頭に、本番では心も体も息もキレッキレ、パワー溢れる黄色のひでこちゃん、64 歳。リズム感抜群、緑色のえりこちゃん、63 歳。いつも素敵な笑顔を絶やさない紫色のさとみちゃん、65 歳。そして最年少でリーダーを務める私、桃色のゆきちゃん、ぴっちぴちの 55 歳です。多くは新温泉町出身で、現在も居組のご近所さん同士です。

なぜこうなったか気になる方もいらっしゃるかと思いますので、結成の経緯をお話しします。

私、ゆきちゃんは 2020 年コロナ禍の最中に愛犬のさすけを亡くしました。心にぽっかりと穴が開いてしまい、一時はふさぎ込んで家から出られないほど気持ちが落ち込んでいました。その時、主人が見ていた音楽ライブのコミカルでアクロバティックな映像に目が留まり、「うわあ、私もちょっとこれ踊ってみよう」と思い、テレビの前で映像の真似をして思いっきり身体を動かしてみました。そうすると、だんだんと心が軽くなって、元気が湧いてくるのを感じました。この映像こそが「ももいろクローバー Z」、通称ももクロのライブ映像だったのです。

その後、隣町の香美町でももクロのライブが行われると知り、幸運にもチケットが当たって、間近でメンバーの姿を見ることができました。手が届きそうなところで繰り広げられる情熱的なパフォーマンスに大きく心を揺さぶられました。その興奮冷めやらぬ中、ご近所のれいちゃんから「ゆきちゃん、催しの出し物をなんか考えてな」と頼まれ、私は迷わず「ももクロちゃんをやりたいです！」と即答しました。

最初、ひでこちゃんたちは「そんなんできるかいな」と驚いてましたが、私の熱い思いが伝わったようで、「やってみようか」という気持ちになってくれました。メンバーが集まり、ついに 2022 年 11 月、ももクロの曲を 5 分間踊りきり、「ももいろクロおばあ Z」は新温泉町文化祭で静かなデビューを飾りました。

振り付けは私ゆきちゃんが伝授しました。衣装は服飾の仕事の経験があったれいちゃんが引き受けてくれました。当初はボランティア団体としてではなく、高齢者福祉施設に対する慰問活動や町内のイベントなど、あくまで地元の中で活動していく方針でしたが、風向きが変わったのは結成翌年の 2023 年 9 月に地元で行われた「世界の但馬牛まつり」への出演でした。

この時のパフォーマンスが SNS で発信され、全国の「もののふ」というももクロファンの皆さんの話題になり、「ダンスは不揃いだけど、みんな全力で頑張っていてなんか面白いね」そう噂になった動画が広がり、公共放送の方も来て全国へこの動画が発信されていきました。NHK の番組で紹介されるなど、世間からちょっとだけ注目を集める中、2023 年 12 月、私の携帯電話が鳴りました。それは新温泉町役場からでした。「おばあ Z の皆さん、12 月 31 日は空いてますか？」。

なんと、本家ももクロの皆さんが毎年大晦日にやっている「ももいろ歌合戦」へのまさかの出演オファーだったのです。「おばあ Z」のニュースがももクロのメンバーにも届いたと言います。私たちの半分くらいの小さなお顔で、とっても可愛らしいご本人たちと一緒に、夢のような気分で横浜アリーナのステージに上がりました。こうして 2023 年 12 月 31 日、「おばあ Z」は本家ももクロと共演を果たしました。

3. 活動内容

催事やイベント会場における、啓発キャンペーンへの参加

ももクロカラーの衣装

リボン🎀付きのウィッグ＆マスクをつけて～変身！！

楽しみながら啓発活動・高齢者に注意喚起

4. 活動頻度

月1、2回程度

ももいろクロおばあZ

ももクロカラーの衣装は、高齢者から小さなお子さんまで幅広い年齢層に大人気で、地元のイベントに引っ張りだこです。2024 年中は、浜坂みなとホタルイカ祭り、新温泉町麒麟獅子マラソン大会、美方郡暴力追放・地域安全・交通安全住民大会など多数のイベントに参加しました。

イベントでは、「私たちを見て、詐欺や交通事故に気を付けないけんな、と思ってくれたら」「私らもロマンス詐欺に気を付けないけん」と話し、自分たちが楽しみながらダンスを通じて呼びかける形の啓発活動や、各種防犯に関する広報キャンペーンなどを行い、地域のイベントなどで活動を続けています。このように、私たちは月に 1、2 回、楽しく防犯活動を展開しています。

ここで活動の動画をご覧いただきます。テレビ番組の撮影風景です。

（活動動画）

次に、活動するにあたっての課題を説明します。

まず、活動の機会を確保することが課題です。メンバーみんなで楽しく続けていきたいと思っています。活動の幅を広げ、「おばあ Z」を少しでも多くの方に見てもらい、「私たちもこんなふうにダンスをしたい」と防犯の輪が広がったらいいなと思っています。

ただ、1 つの曲を完全にマスターするのにはおよそ 1 年かかります。1 年に 1 曲ずつマイペースで曲の振り付けを覚えますが、新しい曲を 1 曲覚えると、今まで覚えた曲は忘れます。なかなか前に進めません。ダンスにキレはないけど、息切れはいっぱいします。新しい振り付けを忘れてしまうので、本当に大変です。あと、手や足の動きが他のメンバーと逆になってしまうこともしばしばあります。本番前はちゃんとパフォーマンスができるか心配です。

また、交通費と経費が負担になりますが、活動費用は確保できていません。活動の幅を広げ、効果的な防犯活動をするためには、やはり活動費は必要です。

6. 課題の解決に向けた取り組み方策

（1）　知名度を上げるための活動

課題の解決に向けての取組の方策ですが、活動の場を得るために、より知名度を上げるための活動に力を入れています。県議会（警察常任委員会）からの視察を受けたり、報道機関からの取材を受けたりと反響が大きく、効果的な広報啓発活動を展開するため、積極的に活動をしています。おかげで、今まで様々な報道機関に取り上げていただきました。私たちを見ていただく機会を増やすことで、どんどんこういった活動が広がり、防犯の機運が高まれば、これほど嬉しいことはありません。防犯活動を盛り上げていきたいと思っています。

また、心がけていることですが、ダンスは腕や足をピンと伸ばし、メンバーと動きを合わせリズミカルに、ステージ上ではとにかく明るく楽しく表現することを意識しています。その結果、ステージを見た同世代の方に「私もあんな風に踊ってみたい」と感動していただいた時は、とても励みになりました。

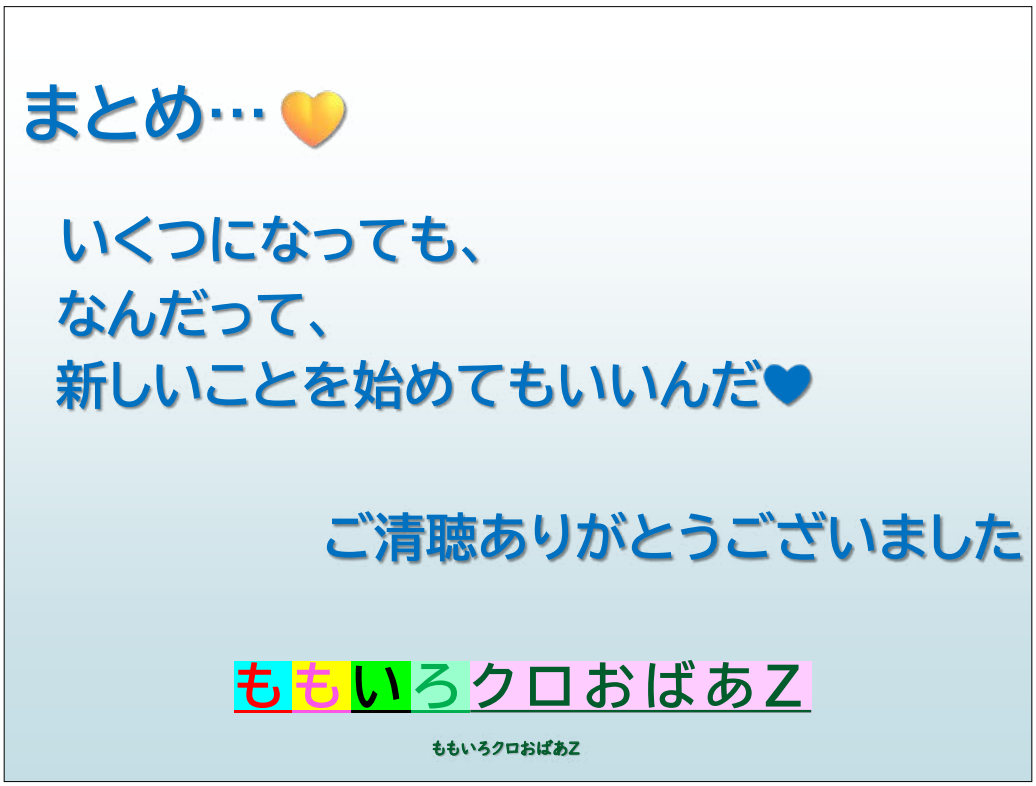
そしてダンスのみならず、美方警察署 安心・安全アンバサダーとして、街頭で各種防犯などの啓発活動も行っています。私たちは平均年齢 63 歳ですが、本家ももクロと同様にメンバーカラーを定め、テーマや役割分担をしながらメンバー同士、楽しく活動しています。今後も今まで通り敬老会や地域のイベントを大事にして、体力の続く限り活動を継続していきたいです。

6. 課題の解決に向けた取り組み方策

（3） 地元警察署からの支援

ももいろクロおばあZ

活動費の確保に向けての方策ですが、活動費はありませんが、美方警察署 安心･安全アンバサダーとしての活動に関して、会場設営や移動手段の確保、広報啓発グッズの作成など、主に美方警察署さんに全面的にバックアップしていただいています。本日も美方警察署の担当の方が来てくれています。いつもありがとうございます。引き続きよろしくお願いします。



それぞれのメンバーが楽しみ、全力で踊ることで、周りのみんなが元気になって、自分たちも元気になれる。これぞまさに「元気の無限ループ」が続いていると思っています。まさか、たまたまうちでお父ちゃんのももクロのミュージックビデオを見て、それが今の活動につながることになろうとは思ってもみませんでした。愛犬が亡くなるまでは、ももクロの映像を見ても「はあ？」という感じだったのが、もうどっぷりハマっています。体を動かすことで心が軽くなっていくのです。

活動を始めて嬉しかったことはたくさんありますが、その中でも「ももいろ歌合戦」で、実際にももクロの皆さんが横浜アリーナの舞台裏で、私たち「おばあ Z」だけのために、いつものあの挨拶、「私たち、今会えるアイドル、週末ヒロイン、ももいろクローバー Z ！」をやってくれたのです。

ちなみに私たち「おばあ Z」の挨拶は「私たち、新温泉町居組のアイドル、平均年齢 63 歳、ももいろクロおばあ Z ！」。この「おばあ Z」を 5 人でコールしています。本番ではもうダンスだけで精一杯で、歌は心の中だけで歌っています。YouTube で「ももいろクロおばあ Z」と検索していただくとたくさん動画が出てきますので、ぜひ見てください。いくつになっても、なんだって新しいことを始めていいんだと思っていただけると思います。

では最後に、オバスターズさんに負けずに、美方警察署アンバサダーとしての意気込みを。

「おばあは Z ！ 詐欺は罰！ 事故はゼロ！」以上です。本日はご静聴ありがとうございました。

講　評

【桃山学院大学 木村 佐枝子 先生】

ご発表ありがとうございました。YouTube でおばあ Z の動画を見させていただいて、今日お会いできるのをとても楽しみにしてきました。私も、ももクロさんのライブに行ったことがあるので、皆さんがされている活動が、そこに背景があるというのはとてもよくわかりました。

この活動は、アンバサダーという形での活動であり、ダンスを通じて防犯の啓発活動をしていくというのは新しい防犯の形なのかなと思いました。先ほどから女性の発表が 2 つ続きましたが、どうしても「防犯」というと、男性を中心に進んできたという歴史があります。そういった中に女性の視点が入ってくるというのは、新しい形で防犯が展開していくのではないかと、今後に大変期待のできる活動ではないかと思いました。

費用のことを課題にあげていらっしゃいましたが、活動費を確保していくのは、なかなか難しい課題かなと思いました。助成金の制度もありますので、申請等は少し大変なのですが、助成金等をうまく活用していただいて、この活動を継続していただけると、すごくありがたいなと思います。今後の活動に期待しております。ありがとうございました。